6544 15_4_1

緑丘

1965 Vol. 3
No. 45

小樽商大
同窓会誌

新発売――セン抜き無用

●日本ではじめての<王冠革命>
スポン！と手で豪快にあけて下さい。もう、セン抜きなんか要りません。日本のビール界ではじめての画期的な大発明を、サッポロがやってのけました。〈ワンタッチ・クラウン〉小さなうばがついた現代の王冠です。

●このびんがストライク型です
どこもムダのない、ひきしまったスタイル。モダンでハンディでユーモラスで、かっこいいストライクびん。

●さわやか、味の直球ストライク
北緯45度がビールの本場。ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー。その本場のサッポロストライク。瞬間殺菌法の新鮮な味が、直球でしみわたります。スポン！と手であけて下さい。

●サッポロストライクあけかた3態

★サッポロ
ストライク

営　業　品　目

K.Y.C. コンベヤー　各　種
K.Y.C. ミキサー　各　種
K.Y.C. スケール　各　種
K.Y.C. モータープーリー　各種
K.Y.C. ポンプ　各　種
K.Y.C. バッチャープラント　各種

綜合建設機械のトップメーカー

KYC 光洋機械工業株式会社

取締役社長　奥村正美(昭17)

本　社	大阪市北区南同心町1丁目12番地	電話大阪(351)3091～5
大阪営業所	大阪市北区末広町12番地	電話 大阪(351)2039・(358)6531～3番
東京営業所	東京都千代田区神田鎌倉町6番地	電話 東京(252)2012・(254)5601～5番
上野営業所	東京都台東区東上野1丁目20番地	電話 東京(832)8819・8820番
福岡営業所	福岡市中浜口町19番地	電話 福岡(28)4161～4164番
広島営業所	広島市東平塚町2番12号	電話 広島(41)6525・8435番
関西出張所	大阪市北区末広町12番地	電話 大阪(358)6　5　3　4番
近畿出張所	大阪市北区末広町12番地	電話 大阪(358)6　5　3　5番
高松出張所	高松市塩上町1181番地	電話 高松(3)4392・2771番
鹿児島出張所	鹿児島市加治屋町16の10番地	電話鹿児島(2)3　0　5　5番
名古屋出張所	名古屋市東区堅代官町14番地	電話名古屋(941)1315・2860番
富山出張所	富山市豊川町1番1号	電話 富山(2)6505・2379番
仙台出張所	仙台市北2番丁83番地	電話 仙台(25)4441～3番
札幌出張所	札幌市南11条西8丁目541の2	電話 札幌(25)9868・(26)7964番
工　場	寝屋川工場・守口工場・吹田工場・所沢工場	

緑丘

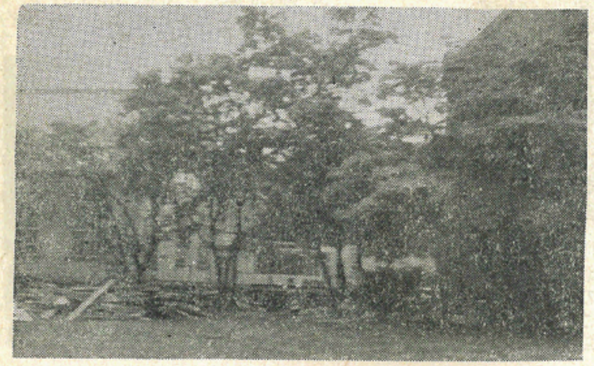
全国版

(通巻)No. 45号
(40年度 3号)

(編集責任者)
大阪市東区道修町三の一
塩野義製薬株式会社内
蓑目英三

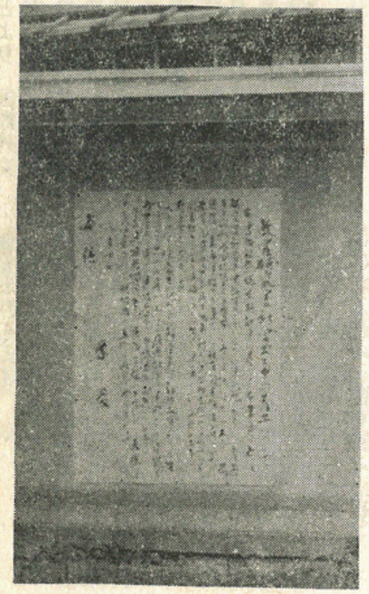
(緑丘大阪支部)
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビール㈱内

母校教官研究室の建設工事着工す



かねて学長から各支部総会の席上で発表あった母校教官の研究室がいよいよ着工ときまった。

八月十四日現在では赤レンガの建物と図書館の間の細長い渡り廊下は取り壊わしの最中であった。これはその後方から建設を開始する研究室の諸資材を運搬するための予備行動であり、校門を入った柔道々場前の掲示板には学長が研究室建設主旨を掲示して、学生に将来の構想を示している。



「本年度建設予定として図書館上の広場に教官の研究室建設が始まりました。土砂、材料運搬のため、赤レンガと図書館との間の渡廊下をこわし、トラックの通路にします。近くその上に橋をかけて図書館への通いを便利にします。研究室は

総予算　一億〇、四〇〇万円
工事費　七、四四〇万円

が決定。

研究室　六〇
会議室　一
事務室　一
暖房室　一
その他　二

建物は五階と三階とになります。七四四坪でかなり大きいものです。」

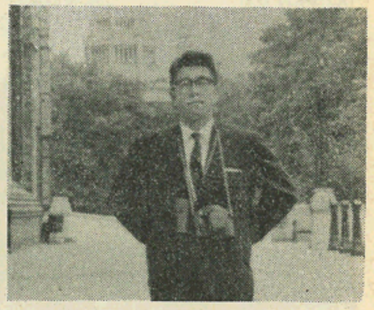
美しくて　スマート…　昭和コーニアのアルミ建材

営業種目
●アルミニウム製建材製品の製造・加工ならびに販売・取付
●ドア　ウインドー　間仕切り　ストアフロント　エントランス各部
●カーテンウォールおよび同付属品

本　社	東京都千代田区神田美土代町22　四国ビル	TEL.293—6721(代)
大阪営業所	大阪市北区小松原町27　富国生命ビル	TEL.312—1026(代)
工　場	栃木県小山市大字大塚1028	TEL.小山2—2165
取締役社長	山田　勇	

Kawneer　昭和コーニア株式会社

海外だより



―英国から―

大野晴史（昭三六）

拝啓皆さま、ますますお元気でご活躍のことと存じます。日頃のごぶさた申しわけございません。その後、平凡ながら元気に学業に励んでおります。英連邦よりの留学生が全体の一割にも及ぶ関係上外国人学生として、特に変った取扱いを受けるというようなこともなく、平凡ながら、落ち着いた雰囲気で、教室での講義と図書館での読書といった授業中心の生活が基調であります。したがって、このところ特に珍談奇談といったものは残念ながらありません。

一般に英国人学生は実によく勉強しますので、語学上のハンデ、思考方法の違い、体力の差などからして彼らといっしよになってやっていこうとすると、なかなか容易なことではありません。学生たちの国内政治、経済問題はもとより、国際外交問題についての幅広い常識と、強い関心、問題意識には学ぶところが多く、さらに彼等との学生生活を通して、英国人の物の見方、考え方といった社会意識の底に流れるものを散見できますことは望外の喜びであります。

以下私の修業生日記のうちから、印象に残っておりますものを再録し近況報告にかえさせていただきたいと存じます。

敬具

十月十三日　晴れ

午後五時より大学の講堂（Firth Hall）で入学式が行なわれた。正式にはVice Chancellor's Receptionと言う。服装を整え、着席番号のついたカードを手に会場へ急ぐ。胸は好奇心と不安にふくらみ歩調は軽い。ABC順に着席してVice Chancellor（Chancellorは名誉職であることが多く、学長としての実務を遂行する）の入場を待つことになって、外国人学生がほとんど見当らないのに気づく。会場の都合で、この時間には文学部と経済学部と社会学部と建築学部の入学者のみが集められたためだった。一般に外国人学生は理、工、医学部に集中している。「外国人学生は自分一人かもしれない」そう思うと何となく周囲の目が自分にそそがれているような気持ちがしてくる。

進行係が簡単に式順を説明したがよく聞きとれない。「相当あがっているな」と思う。「なあに、前の学生のやるとおりやればよいのさ」と自分にいい聞かせて、何とか落ち着きをとりもどす。

学生会の会長を先頭に、各学部の担当教授、それに副学長がそれぞれガウンと角帽に身を固めて、後部入口より入場する。それと同時に全員起立した。会場の中央を正面演壇に向かって一歩一歩ゆっくりとボールを蹴るような歩調が続く。頭上の角帽は高次線上をすべるようだ。壇上に設けられたイスにガウン族が着席するのを待って全員着席した。

次いで各学部の担当教授がその学部の新入生の名前を読み上げる。それに合わせて一人一人演壇に進み、副学長と握手を交わし、自席にもどる。中には発音のむずかしい名前もあるとみえ、読み上げそこなって"I beg your pardon, Sir."が一、二度聞かれたほかは、すべて事務的に式は運ばれた。

日本のように大多数の学生が黒い学生服を着ているわけでもなく、中には セーター姿の学生もあり、儀式につきものの固苦しさはあまり感じられない。握手のやり方も各人各様だ。しかし、儀礼的な握手の最大公約数的な型があることも確かだ。それは軽く握手して、下から上へ二十糎くらい持上げ、再び十五糎くらい下ろしたころで幾分強く握ると見えた。

このような握手がすむと、来賓の祝辞といったものはひとつもなく"to work and play hard"という趣旨の、いとも簡単な副学長のあいさつがあって幕となる。学生たちの間には"Stupid"（つまんないの）の声がチラホラ聞かれた。

これは副学長の発案になるもので一般に、英国の大学では学生全体の三分の一くらいしか学位授与式に参列できず、したがってこのように副学長と握手する機会もないまま巣立つ学生が多い。そこで学生時代の思い出のひとこまとして、このような機会を新入生全員に与えようという親切心があってのことらしい。この感激誰か忘れん。

（三井物産ロンドン支店
英国修業生・シェフィールド大
在学中）

緑丘人（三井物産）海外勤務者（四〇・九・一）

柿本　正三（昭一一）
The Sangkasi Thai Co, Ltd.
三浦　哲夫（昭一三）
豪州物産シドニー本店
田脇　由夫（昭一六）
ニューヨーク支店
石井　勉（昭一七）
ナイロビ駐在員
武都　清（昭二二）
バグダット駐在員
加留部正哉（昭二三）
豪州物産シドニー本店
※武岡　嘉樹（昭三五）
マドリッド駐在員付
※大野　晴史（昭三六）
ロンドン支店
※松浦　英雄（昭三八）
アルゼンチン物産
※海外修業生

バンコックから

柿本正三（昭11）

昨年九月に羽田出発の時緑丘の諸兄に連絡する暇なく出発の前日夜八時まで、会社で打合せをやり、家内に叱られた程で紫竹君によろしくと頼んでこちらへ赴任したわけです。

当社は三井物産と伊藤忠と現地側との合併会社で、私が物産から派遣されたわけです。当地へ来る時は暑くて住み難い処と聞いていたのですが、一年近くになりますと、こんな住みよいところはないと思っております。暑いことご承知の通りで年中夏です。しかしあの大阪のようなむし暑さはなく、冷房設備が完全で外出は車ですので暑さは感じません。何しろ歩くことがないので体によくないと思い、休日は下手なゴルフで健康に気を付けています。

三十五度―四十度のジリジリと焼けるような太陽の下で日本人はゴルフをしています。何しろ日本のように郊外へ行って緑に接する処がなくゴルフより日中は行く処はありません。暑いせいかむづかしいことも考えず過しておりますので、これがいわゆる南方ボケというのでしょう。日本人は外人扱いで、特に金使いがはげしいので、大事にされます（内心は馬鹿にしているでしょう）夜の世界でも日本人が盛り場に一杯です。現在は内地の不況のあほりで、日本人は自重してますが、私がきた当時はナイトクラブは日本人で一杯でした。日本に居るより給与もよくぜいたくができるので、そして欧米と異なり気楽なので、日本人は住みよいというわけです。戦前のことは判りませんが、昔の上海に居るのと同じだろうと思います。また敗戦当時、日本にきていたアメリカ人と同じような気分です。

バンコックに緑丘の人が居るのかどうか解りません。ついでの時にお知らせ下さい。タイ国人は従順なので、会社でも今の処、仕事はやり易いのですが、タイ語が覚えられず弱っています。やはり英語が重要になりますが、これまた下手で、昔の不勉強が悔まれます。近くの方で戦争をやってますが、現在は平穏です。いつまでも平和であることを望みます。

この『緑丘』を海外の緑丘人に送ろう

日本の「緑丘」から世界の「緑丘」へ

世界各国に駐在して、母校の最近の事情や同級生の動静を知ろうとする気持は日本を離れて、日がたつに従い、ますます強いものがあろう。かってカラチにおった亀井尚一氏（昭一八＝東京銀行神戸支店次長）からの緑丘掲載記事でも、またこの号のバンコックからの柿本正三氏（昭一一）の記事からも充分察知できるので、大阪支部幹事長若山永太郎氏（丸嘉機械㈱専務）はこの「緑丘」を海外の緑丘人に送ろうと提案した。

そのためには名簿が完備されなければならないので、取り急ぎ同社大崎康市（昭一九）勝股一哉（昭二九）両氏のアメリカ派遣（九月十日）を機会に先輩、後輩を訪問してアメリカ駐在緑丘人の名簿を調査するという。

一方三井物産、紫竹氏（昭一一）は目下、三井物産、元木下産商合同緑丘会員名簿を作成中なので、この主旨に賛成して名簿のでき次第「緑丘」編集部へ送付することを東京から確約した。

同級生の海外駐在の住所、氏名をできるだけ詳細に左記へ通知願いたい。

その都度この「緑丘」に掲載して海外緑丘人との交通にも役立たせたい考えである。

大阪市東区豊後町四一
丸嘉機械㈱内　若山永太郎宛

〈まんぴつ執筆者―続き〉

岡本元次、立石市郎（昭一三）江川裕一郎、若山永太郎
木村章三、山本俊雄、松ケ野寿夫
丸山弥、平木勇三、金垣英雄（昭一四）伊原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝
壱岐隼雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、北条恒一、三浦正、飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、樫村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鐵三、市橋宏一郎（昭一六）相原正美、相田正
（昭一六後）中村平之助、小林芳美
松村克己
（昭一七）籾谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男（昭一九）高山博男（昭二三）牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧（昭二五）我満博仁
（昭二九）古内一成（昭三〇）石津洋三（昭三一）小田島和夫
（昭三五）佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
（昭三六）神田隆志

猪木正道著 随想〝世界と日本〟

小樽商大生の素質のよさと行きとどいた教育

小樽商大で行なった集中講義は、きわめて愉快な体験だった。何しろ一日に六時間ずつ講義するのだから私もむろん疲れるが、学生たちの方はもっと大変だ。しゃべっている方は、数日後疲れを感ずるものだが、聞いている側は、朝十時から夕方の五時まで、同じ講義がつづくのだから、うんざりするにきまっている。居眠りも出るだろうし、雑談もしたくなるものだ。ところが小樽商大の学生たちは、例外なしに、驚くほど熱心に聴講してくれた。おかげで私は講義中一度も不愉快な感じを持たず、大した疲労感も味わずに、講義を終ることができた。

思うに、小樽商大の学生たちは素質がよいのだろう。毎年十倍近くの志願者の中から選抜されているだけに、優秀な学生が多いのである。学生たちの顔つきや態度にも、この点は充分うかがわれた。明治末に小樽高商として発足して以来、この学校は多彩な人材を世に送り出しているので、北海道ばかりでなく、本州、四国、九州からも志願者が集るようだ。しかし、小樽商大の学生たちがすぐれているのは、入学者の素質だけによるものではなさそうである。入学後の教育が他の大学に比べて行きとどいているという印象を、私は強く受けた。

この大学の入学者が毎年百九十名前後に限定されていることは、大切なポイントの一つだと私は考える。一学年百九十名、四学年で七、八百名の規模であれば、すべての学生に対して、学長や教官の眼がゆきとどくし、学生相互間の交流も可能だ。戦前の旧制高校が人間教育という点で比較的成功していたのも、学生数が大体七、八百名にかぎられていたことと無関係ではあるまい。日本の大学、特に私立大学は経費上の必要もあって年々マンモス化しており、一学部だけで一学年千名ないし二千名、学生の総数二万ないし四万というところもある。一体こんな多勢の学生をどうして教育するのだろうか？ 学校にも最適規模というものがありそうだ。大学のマンモス化は百害あって一利もない。

次に小樽商大の場合、専門科目と一般教養科目との間の関係が、大型大学に比べてうまくいっているらしい。大きな大学では、専門科目を担当する学部と、一般教養科目を引受ける教養部との関係がしっくりゆかない。このため、学生たちも、一般教養科目に熱意を示さなくなり、入学後の貴重な一、二年間がむだに近い結果を招く。ところが小樽商大では学部が一つしかないので、専門科目および一般科目担当の教官間の人的関係も、対立的にならないのである。

最後に注目されるのは、この大学の卒業生たちが、母校に対して、強い愛校心を持ち、寄付金などの方法で、母校の発展に尽力している点である。今夏は、私のほかウィスコンシン大学のガース博士も卒業生の寄付金により招かれて、特別講義のため来学された。

（法博、京大法学部教授）

随想〝世界と日本〟有信堂発行

手塚寿郎教授特号集

資料蒐集についてお願い

来年度手塚寿郎教授特集号を発行する計画を建てました。

皆様のうちでゼミナールをとられた方、同期生で先生の講座をとられた方など沢山の手塚教授と交友のあった方が居られることと思います。

何卒この特集号を成功させるため今から御準備下さいますよう願い上げます。

手元の卒業時のアルバムを見て、この特集を成功さすためには、どなたに執筆さすのが最も適当であるか、またゼミナール員などのご氏名（住所）もお知らせいただきたいと存じます。

なお写真、ノートなど、その他参考文献など拝借できますれば幸に存じます。（編集部）

あらゆる建築設の
設計・施工
暖冷房設備・空調設備
給排水設伝・衛生設備
配管工事全般
日邦工業株式会社
取締役社長 井藁政市
相談役 宮地邦介（大11）
本社 大阪市西区南堀江1丁目3番地 電話大阪（531）代表 8461～5番
出張所 堺市浜寺石津町東2丁702番地 電話 堺（41）0776番

四十五号の出版に当り

〝緑丘〟の発刊当時を顧み

発展の具体案を提示する

畑信太郎（大一四）

三十年頃の大阪支部は東京につぐ大支部と言われながら無活動そのもので、昼食会もいつのまにか消えてしまい年一回の支部総会もお義理に開くといったお粗末なものでありました。そのため母校の旅行団やボート部、卓球部などがきた時は支部役員は苦労いたしました。ことに四十五周年の資金の割当を受けた時や大野学長の後任について支部の意向をまとめ態度を決めよと本部から督促された時はサンザンでありました。

そこで支部建直しをするために大阪支部の動静を伝える会報を発行してお互の親睦を計る以外にはないと蓁目さんが私に相談を持ちかけ当時世話役を引受けていた内藤君も誘い三人で、今は亡き伊東小四郎支部長宅を訪問しました。併せて月例昼食会を開く用意のあることを私がもらし相前後して出発しました。

昼食会は第一回が三十三年六月十日で毎月十日に開かれ今年の十月で第七十二回となります。また支部会報の「緑丘」は三十三年五月十日ガリ版八頁でスタートしたのであります。「緑丘」が今や支部会報でなく、全国版というべきまでに発展しその間

緑丘創刊号

一四号（三五年七月）名古屋支部
二一号（三六年九月）五〇周年記念
二三号（三七年一月）京都支部
二七号（三七年八月）大野学長退官記念
二九号（三八年一月）小樽支部
三五号（三九年一月）浜林先生追憶
四〇号（三九年一一月）戦没学生
四二号（四〇年三月）小林多喜二

の特集号が続々と出され本号で四五号となり来年は五〇号に達することは真に驚異とするものであります。

これは蓁目さんの母校愛と卓絶した才能と奉仕の信念、そして奥様のご理解と家族ぐるみの手助けによるもので、蓁目さんでこそできもし、また続いてきたのであります。皆さんもご承知の通り企画編集はもちろんのこと校正、発送、広告、会費の整理、そして資金繰りのことまで一切が彼にもたれかかっているのです。せめて校正、広告、発送だけでも助けてあげてほしいと思います。

また「緑丘」の刊行を安定さすため発行部数の確保拡張について皆様の心からのご協力をお願い致したく存じます。方法はいろいろあるでしょうが、

私の提案は自分の同期の者、あるいは親しい同窓の方へ「緑丘」一カ年分を貴君ご自身の負担で贈呈して頂きたいということです。三人五人分と多ければ多いほど結構ですが、少なくとも一人位は引受けて頂けないでしょうか。

未だ「緑丘」を見ていない人B君のために、貴君Aが購読料七〇〇円を添えて「緑丘」の送付方を編集部へ申込んで頂くとしませんか、初めて「緑丘」を手にしたB君の好意を感謝するとともにC君にも「緑丘」を紹介したくなると思います。そしてB君もまたA君のようにC君の分を編集部へ依頼するとなればCからD、DからEと「まんぴつ」式にリレーされ最初の一冊が次々と広がって行かないでしょうか。

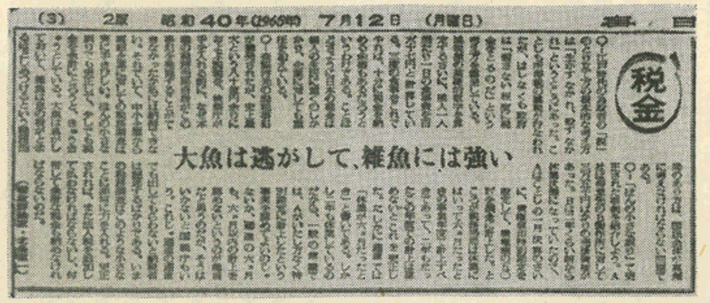
私はA君が続々と出てくることを夢みているのですが如何でしょう。

一般鋼材（厚板・丸棒・型鋼） 鋼管（各種引抜鋼管材料）
軌条，軌条頭，スチールボール（粉砕用）鍛造材及鍛造品
特殊鋼主としてステンレス（各種パイプ，板，棒，その他加工品）
萬商株式会社
代表取締役 土田皓造
取締役 市橋宏一郎（昭和14年卒）
本社 大阪市西区南堀江通2の55 電話（541）0771～5
東京出張所 東京都中央区室町3の7 宝ビル内 電話（561）6612・6388

毎日新聞連載

商工欄——税金

北条恒一
（昭一五　税政評論家）


税金
大魚は逃がして、雑魚には強い

大魚は逃がして　雑魚には強い

○…江戸時代の為政者の「税」のとり立て方の根本的な考え方は「生かすなかれ、殺すなかれ」というところにあった。ことしも所得税の減税が行なわれたが、はしなくも政府は「殺さない程度に税金をとるのだ」という考え方を露呈している。減税額の基礎的数字を算定するさいに、成人一人当たり一日の食事費を百六十七円と計算している。三度の食事をこれでやれば、十分に税金を納める余裕もあるだろうというわけである、ことほどさように日本の税金は個人の生活に重くのしかかり、企業に対しても重圧を加えている。

○…森脇将光の脱税事犯が摘発されたが、史上最大という八十億円余りにおよぶ脱税を、検察庁が手を入れる前に、なぜ本職の税務当局自身がこの事犯を発見することができなかったか、私には納得できない。それでいて、中小企業から零細企業に対して税務調査は実に手きびしい。ほんの小さな誤りでも是正して、少しでも税金を余計にとろうと、きゆうきゆうとしている。大魚は逃がしておいて、雑魚は息の根がとまるほどしめつけるという税務当局のあり方は、国民全体が真剣に考えなければならない問題である。

○…「ほんの小さな誤り」で更正された事例を紹介しよう。A社は得意先のB製作所に対して三万五千円ばかりの売掛債権があった。Bは二年くらい前から休業状態になっていたので、Aはことしの一月決算のさいに、債券償却特別勘定を設定して、債券額の五十％を損金に計上した。ところが税務当局は休業にはいって六カ月たったときの事業年度で計上すべきであって、二年もたったこの年度での計上は認めないとこれを更正した。たしかに通達では「休業が六カ月たったとき」と書いてある。しかし二年も休業しているのだからAがいたし方なく特別勘定に計上したという事実を認めてよいのじゃないか、通達の六カ月以内の計上を認めないというのが趣旨だと思うのだが、そうはいかないと国税庁もいう。これじゃ通達の通達でも出してもらわないと納税は混迷するばかりである。いまの税務調査はこのような小さなことに非常に力を入れる。更正されれば、また法人税を追加して払わなければならないし、付帯して余計な税金も納めなければならないのだ。（七月十二日）

役員報酬　どちらを選ぶ

○…Aさんは年間の売上高八千万円の典型的な同族会社の社長である毎年のように法人税の課税所得金額を八百万円くらい申告し、その約半分の税金を納めている。Aさんが会社からもらう報酬は月五万円、奥さんが従業員（経理係）として月給二万円。娘さんが三人おり、長女が結婚することになったが、貯蓄が少ないので会社から八十万円借金した。決算期がきて決算書には「貸付金」として八十万円残ってしまった。税務調査があって、貸付金に対する利子を認定された。その額は年一割で八万円、しかもこれが代表者に対する認定賞与となり、さらに税金を追徴された。

○…Bさんは、Aさんの会社とほぼ同じ規模の会社の社長である。報酬は月三十万円、奥さんも取締役として経理いっさいを処理しているので報酬は月十万円。会社の所得金額は年約三百万円、法人税はこれに対し約四七％。このほかにAさんの会社と違うところは、毎期利益のうちから相当の配当金を出している。やはり娘さんが三人いて、長女が結婚することになったが、個人の貯蓄で十分にまかなうことができ、そのうえ取締役会を開いて社長に対して令嬢の結婚祝金として会社から十万円贈った。これは正当な費用になる。Aさんのやり方とBさんのやり方を比べて、税の負担のうえからあなたはどっちが得だと思いますか。もちろんBさんのやり方の方が得である。Aさんはあまり役員報酬が多すぎると、税務調査で否認されてしまうのじゃないかと委縮してしまっている。たしかに「過大な役員報酬」は損金に算入することを認めないという規定が法人税法にはある。

○…だが、ここで考えなければならないのは、中小企業の経営者は仕入れ、販売、労務管理はもちろん金融など経営全部についての責任で「命を張って」時間かまわず働きぬかねばならないことである。経営に寄与する価値は金銭ではかりしれないものである。せめてとり得る可能な限りの報酬でももらわなければ、間尺に合わない。どのくらいから過大になり、どの辺までは過大にならないという具体的な税法上の規定はないが、過大報酬か正当報酬かを裁判で争ったとき、税務官庁側が敗れている事例がある。ただ、役員報酬について株式会社の場合は株主総会（定款できめてもよい）で決定し、議事録を作成しておかなければならない。こういう形式なことでひっかけられることがある。（七月二十日）

はね返せる　〝弔慰金追徴〟

○…夏向きの涼しい話というのは、「税金」に関する限りあまりない。ただ人間は生物である限り、いつかは死ぬものである。そのときのお話をひとつ。会社の社長、重役あるいは従業員がなくなって、弔慰金を出したとき、これはどういう課税上の取扱いを受けるか。

○…ある会社で社長がなくなった。そして長男Aが跡を継いで社長になった。会社は弔慰金としてAに百万円を損金として支出した。もちろん取締役会の決議をしている。退職金は別途に支出している。法人税について税務調査があって、この弔慰金が問題になった。調査官は「株主総会の議決を経た役員報酬以外のものだから、この弔慰金の百万円はAに対する賞与である」と主張する。

○…役員の賞与はご承知のように法人の損金にならない。そうなると法人税が三〇％が追徴され、地方税も追徴される。それだけならまだよいが、賞与であるA個人の源泉徴収所得税もふやされ、同時に個人の地方税もふえるという結果になり、なんのために弔慰金をもらったのかわからないという結果になってしまう。

○…ところが、相続税法の通達に、死亡当時に支給されていた報酬俸給等の月額の六カ月分までの金額を、弔慰金等の名目で支出したとき、その金額は非課税としている。業務上の事故で死亡したときは、非課税の額の限度は三十六カ月分までである。社長はなくなる当時月額二十万円の報酬をもらっていた。したがってAにとって百二十万円までの弔慰金ならば課税上の問題は起きなかったわけである。しかも会社の正当な費用として損金に経理できたのである。

○…これを法人税の調査官のいうことをウのみにして税金を納めていたら大変な損害だった。世の中にはこういう人が多く「税金が重すぎて」とこぼしてばかりいる。更正されそうになったら、得心がゆくまで、その更正の適法妥当性を調べないと損をすることが多く、また知らないばかりに、納めなくてもよい税金を納めている事例が多い。（八月九日）

税務職員の　調査権は強大

○…真夏の暑さが峠を越し、ようやく秋がやってくるかと、なんとなくほっとしているときに

「ごめんください。○○税務署のものですが、おじやまします」

と全く予期しないお客さまのご入来がある。税務行政の事務年度は七月に始まり翌年の六月に終わる。七月には人事異動が大幅に行なわれる。七、八月は通常の税務調査は行なわれないのだが、ことしの大異動は七月の中旬に終っており、これは例年より十日ぐらい早い。このことから本格的な税務調査が少し早めに開始されるのではないかと推量される。いきなりやってきて、その日現在の現金の有り高と現金出納帳の残高が合うか合わないか、売上帳がどうなっているかなどの現況を調査するのが、実況調査といわれている。少なくとも青色申告をしている法人なら日々の現金出納帳と現金との整理はどんなにいそがしくてもやっておかないと、あらぬ疑いをかけられたりする。この実況調査を悪用し、税務署員になりすまして現金を盗んだりする犯罪がときにはあるので、こいつはあやしいと思ったら身分証明書の提示を求めることである。これは携帯していなければならないことになっている。

○…税務職員の調査権、正式には質問検査権というのは、実に強大な権力で

「社長さん、すみませんがあなたに個人の預金通帳を見せていただけませんか」

といわれ

「そんなものを調査する権限は、あなたにはないだろう」

というわけにはいかないのである。しぶしぶ見せたのはよいが、相当の出入りがある。その出入りがすらすら説明できないとき特に現金取引きの多い商売などでは、売り上げをごまかしていたのではないかといった疑いをかけられたりする。そうでないことを実証するために社長は苦労しなければならないことがある。

○…森脇脱税事件の衝撃と法人税収先細り傾向とがからみ合い、これからの税務調査がどのような様相を示すか興味深いが、税務職員は公僕であることを再確認するとともに納税者は大事なお得意さまであることを忘れてはならぬ。

なお先日、本欄で弔慰金についてひとつの事例をとりあげたが、すべて弔慰金があのように取扱われるのではなく、法人税法および相続税法の細かい通達がいくつかあるので、個々の場合に応じ、慎重にお取り扱い願いたい。（八月二十三日）

原稿は原稿用紙（一行十六字）に書いて下さい。
原稿をご寄稿下さいます場合、必らず原稿用紙にご記入下さい。
便箋などにお書きの場合は採用いたしませんので悪しからずご諒承下さい。

緑丘

小林多喜二特集

大誌
商会
樽窓
小同

を読んで

長尾桃郎

その節は「小林多喜二」特集号を無理にもご分譲願い、ご芳情多謝申しあげます。落掌当時、文字どおりピンからキリまで余すところなく通読いたしました「鉄は熱いうちに……」とは、百も承知であり、また打つべき時はあり余っているかに映る立場にある身ながら、現実は却って逆に、鍛鉄の時を奪うに急であったため、誌をいただいてからすでに幾カ月。さきの約を果すため、若干の感想を書くには、改めて再び誌を通覧する必要に迫られた次第です。

①編集について気付いたこと。

題号と建碑主旨とを、巻頭のページに噛み合わせたのは、むしろ逆手に出た手法かと見ました。時はとうに遷ったとはいい条、多喜二氏がさきに違法の人であり、その当人の建碑事務所を官立大学内に設けたことに対する何か憚り気味が、態よくカムフラージュされたレイアウトのように見受けたのは、私のひが目でしようか。

〝小林多喜二碑についてお願い〟（伊藤整）

これは当然置かるべきところに置かれた配置で申し分はありませんがそれにしてもこの稿が4・5両ページに収まるべくして納まり切らず、稿末部分若干を6ページに移行せざるを得なかったのは、おそらく原稿字数の誤算ではなかったでしょうか。4・5両ページ下欄「碑製作者略歴」と伊藤氏の本文との間には十分の余白があること、従って伊藤氏の本文上下の余白を縮めることによって、6ページにハミ出した部分を4・5両ページに収に得られたとすれば、巻頭を飾るこの一文はまさに一二〇％に編集技能を発揮した結果をあげ得たのではなかったでしょうか。

そうすれば〝碑の建立について〟（加茂学長）は、6ページのトップを飾ることができたはず。もちろん伊藤氏稿の残余部分を前ページに移したために生ずる6ページの空白は他の適当な関連小文、たとえば〝碑型決まる〟（P10）などを、囲いものとして、比較的多くのスペースを与えることにおいて、十分埋めることは可能だったと考えるものです。

出来上ったものを、とやかく批判するのはいと易しいこと。組み上った、従ってどうにも動きのつかぬ活字群を目の前にして、さてこれをどう割つけ、どうレイアウトするかの人知れぬ労苦は、相手の組版が飴細工のように伸縮可能な物体でないだけに、とても当該者以外には判りかねる世界。いささかその分野にも首をつっこんでいるだけに、右のような憎まれ口をきいた次第です。あしからず。

②寄稿各篇についての感想

〝多喜二と人口論〟（南亮三郎）

多喜二氏のわかさのゆえの、理論への忠実性のゆえの勇気と、先生の先生ゆえの寂しさを、微笑ましく読みとりました。

〝多喜二の思い出〟（糸魚川祐三郎）

われわれの卒業の頃に、日本が異常景気で湧き立っていたという特殊的社会環境のせいもあってか、ごく一部の人々を除けば、「高商」の肩書を頼りとして漠然と社会に対応する態の者が多かったのに、この稿によって、多喜二氏の生活態度、社会意識を知ることができたとともに、やはり〝時代〟を教えられた感じでした。

〝特集号に寄せる〟（室谷賢治郎）

建碑計画者に対する一本の釘、文学碑ばやりの当今、建碑にとやかく申すことはないまでも、去来の墓が自然石一個と指摘された先生の意には、満腔の拍手を送るのが礼儀だと考えました。

〝少年の日の多喜二〟（片岡亮一）

志賀直哉氏の偽手紙の主人公が判然としたのを収獲としました。

〝写真の三人〟（福田勇一郎）

「蟹工船」の素材の出所については、満ざら耳にしないでもありませんでしたが、そのネタの出場所を確認できたのは、本誌のお蔭でした。

〝多喜二のある一面〟（島田正策）

内に文学を抱く者の東京への憧れそして一見した〝東京の再現〟に熱意を示す当人の姿――若き情熱漢を切に思わされ、この熱情こそ、彼多喜二氏を大成させる原動力だったのだろうと。

〝市井の人多喜二の片鱗〟（大野純一）

天分の有無はともかく、情想に恵まれた少年の心には、音楽、文学、絵画の芽はかなり普遍的にあるように、私は考えます。そのいずれを選ぶかの動機は、環境、境遇などのよって来たる偶然に支配されるところが少ないようにも思われます。多喜二氏が〝一番金がかからぬから〟として、文学を選んだのは、畢竟、彼の余り恵れなかった生い立ちに由来するかと推察しますが、遊びたい年頃で、稿料をそのまま母の名儀で預金した孝心には、つくづく叩頭。同時に筆者のいわゆる〝良識ある市井人〟とは、当時の母校の教養力の反映だったと考えたいものです。

〝多喜二と私〟（蒔田栄一）

失なわれた百余通の多喜二氏の書翰に痛恨の泪を催します。筆者も、〝短慮だった〟と記されてはいますが、結局は、当時筆者の肩書が邪魔したのであろうとお察しします。戦前、ガサを喰いながら、ともかく非合法地下出版紙誌の多くを守った経験のある私だけに、なおさら。

〝多喜二さんの執念〟（中野清一）

淡々と語られながら、多喜二氏の

性格を恐しく深刻に浮彫されています。多読、精読の多喜二氏が〝孫引だけで月給を得ている先生〟に一驚する素朴さも面白いが、なんといっても筆者が指摘していられるように多喜二氏の卒業論文の序文の発掘こそは、珍中の珍であり、多喜二氏研究上の至宝のように考えるのは、あるいは私の希覯書癖かもしれません。しかし右序文が果して、彼の全集に収録されているかどうか。河上肇先生がかってひと時、思想的変節漢のように見做された時代もあったように、この一文を見ると、多喜二氏も執念の彼岸到達のために、あれこれ文学（思想）巡礼を試みた模様であり、例えばストリンドベルヒをアウフヘーベンしようがために労苦した跡など、真の人生を摑もうとした真剣極まる努力にほかなりますまい。断じて彼多喜二氏は只者ではなかったという印象を深々と植えつけられて嬉しい限りでした。

〝大きな子供〟（武田暹）

裸の、そしていつまでも童心を喪くしない多喜二氏の一面を知ることができ愉快でした。

〝初めて多喜二と会った日〟（高崎徹）

文学をやろうという初心の、気おい立つ素直な理想主義者の像を、ここに見ました。

〝思い出の場面二つ〟（野口七之助）

拓銀をやめた多喜二氏が、日本の人気作者ではなくて、単なる失業者として、浮かぬ日の姿が描かれていますが、どのように自信があろうとも、地方にある身としては（中央における無名の文学青年の生活様式を知悉することができない立場にあればあるだけ）不時収入をアテにする生活への不慣れと不安が、いままでの定収入生活への〝恋着〟？というか、過去の不遇から推し、将来の長い人生についてあくまでベーブメントのしかれた手堅い道を歩もうとする、受けた教養の真髄が、この時目覚めていたもののように、私は察します。「……作家を志して、ブラブラしているのは、それだけ社会的に寄食することであって、社会的な罪悪です。私は会社員になって、自分の生活を支えながら創作を続けます……」（上記「多喜二の思い出」）というのが、多喜二氏の方針であり、同時に何事につけても、「確さ」と「基盤」を持ちたかった彼多喜二氏は、流行作家と謳われようとも、流行そのものの浮気性を見抜いていたのではなかったでしょうか。彼多喜二氏がどんなに基盤を築くに執心だったかは、文学を志向した初期、志賀直哉氏への私淑、その後ストリンドベルヒへの心酔などにも、十分その片鱗が窺われるところと信じます。加えて想像すれば、当時は田口滝子への経済的交渉なども、心を煩わす一因となっていたのではなかったでしょうか。それなのに突然「失業」に直面するに及んで、さて、どこに新しい基盤を求めるか、求められるのかの悶えが、浮かぬ多喜二氏となって現れていたのではなかったでしょうか。

〝多喜二断象〟（和田克己）

〝親おもいに泣く〟（帖佐猛）

上記〝写真の三人〟で「蟹工船」のネタの出所を知った悦び同様、この稿では「不在地主」の素材と、加えて多喜二氏辞職寸前の寸劇をも確めることを得ました。センサク癖でないまでも、記者の経験をもつ身には何か嬉しいものを残しました。

〝多喜二と伊藤整〟（小野寺佐）

図書館に名残りを惜しむ学生は少なくなり〝「多喜二の文学」を理解する者なくして、多喜二の像が建つ〟ことに暗示的に触れたこの稿は室谷先生の一文に通ずるものがあると感受いたしました。

〝亡き先輩〟（清水摂三）

米窪太刀雄の「海のロマンス」を読んで、商船学校に入学した私の友人のあったことを、ゆくりなく想い出さしめました。同時に優れた筆触で、多喜二氏の作品を味読する方法をも指導されたこの一文は、ある意味で、建碑の方向にも示唆を与えているといっていいのではないでしょうか。

× × ×

昭和初期、まだ南先生が「緑丘新聞」に〝第三の卓〟欄を担当されている当時、何か寄稿をと求められ、小林多喜二に関してはと回答。あたかもベトナムに向う米軍機B52が沖縄を基地として発進した今日、佐藤首相が国会で〝困惑〟しているのと同然に、南先生を追いつめた意地悪の私は、実は当時「小林多喜二随筆集」（東京・書物展望社刊）（即日発禁）を編集していましたので、稚き日の多喜二氏の作品に触れつつ一つには同書のPRをかね、行ないたいというまことに卑しい心も潜在しなかったわけではなかったのでしたが、それはともかく、同じ学校の外部機関誌が当の多喜二氏特集を編み〝真実の声を伝えて不滅の光を放とう〟と期待するまでに、時代の変ったことを何より生甲斐のあったことと考えます。三十年近くも、いわば無産運動外部からのシンパのような立場で、その生長を見守り、念願し来った私にとって、この特集を新たに書架に加えることができたのは、言い難い歓喜です。

多喜二研究の上に、多くの珍しい素材を提供された本誌と、その編集担当者の労苦を、本誌の各ページから酌み取り、くみとることによって編集者への稿いと致したい所存です。

（横浜市中区翁町二ノ七一　稲川アパート内）

苫米地英俊先生特集号に広告をおねがいします

苫米地英俊先生特集号は新年号に発刊します。

すでに四〇名の執筆者がありますので、立派な記念特集号が出来上ることと存じます。

どうぞこの特集号に協賛して広告をおねがいします。

広告原稿〆切　十二月十日

（広告原稿封筒「表」に苫米地先生特集用と御記入願います）

一頁全段　一二、〇〇〇円
½段（半頁）　六、〇〇〇円
¼段　三、〇〇〇円

代金は掲載後で結構でございます。

魯迅と多喜二
—中国の旅から—

加藤昌市（昭一六前）

昨年十一月七日から十二月二十日まで「北京放送をきく会訪中代表団」の一員として、中国各地を旅行した。北京放送局がその日本語放送開設十五周年を記念して、日本全国の聴取者から代表十名を招待して下さったのである。代表団は、北京放送中国各地での各階層の人々との友好交流、中国の実情についての認識を深めるという三つの任務をもっていた。撫順、西安、延安、上海、杭州、広州の九都市及びその周辺であり、一部を除き殆ど飛行機の旅であった。建国十五周年を迎えた中国の政治、経済、文化、社会の各方面について身をもって学ぶことができたが、ここでは〝緑丘〟に関したことだけについて報告したい。

十二月十二日、上海で私は誕生日を迎えた。この朝、上海放送局の田志強先生が和平飯店（もとのキャセイホテル）の私の部屋を訪れ、花束とバースデーケーキを贈って下さった。午前中、先ず西部の万国公墓に車をはしらせ、日中友好運動の先覚者、内山完造先生（もと内山書店主）の墓に詣で、ついで中山路を迂回して虹口公園の〝魯迅先生之墓〟（碑名は毛主席の字）に詣でた。同じ公園の中に〝魯迅紀念館〟があり遺品その他の豊富な資料によって、魯迅の文化活動が時代とともに次第に革命的なものに発展していった過程を展示していた。藤野先生が朱筆を入れた解剖学ノート、内山氏にあてた絶筆の手紙など感銘深いものがあったが、その中に私は「為横死之小林遺族募捐啓」という当時の新聞広告の複製を見つけ、思わず足をとどめた。小林多喜二の虐殺の報をきき、当時の中国左翼作家聯盟に属する文学者たちが抗議をし、多喜二の遺族のために募金をよびかけた文章である。（これは中野重治氏が本誌の特集号で、北京の魯迅博物館で見たといっている文章と同じものであろう）その発起人の一人に魯迅が名をつらねているのである。

私はそれまで、日本のプロレタリヤ文学が中国にかなり飜訳紹介されて影響を与えていること、その中に多喜二の「蟹工船」その他の作品があることを知っていたし、北京や上海の新華書店で中国語訳の多喜二の作品を眼にしたが、正直のところ、この事実のあったこと、魯迅と多喜二のつながりのことを知らなかった。ひとときの感慨にふけっているうちに、他の団員にかなりおくれてしまい、文章全体を写しとるいとまがなかったのがくやまれる。

帰国後、岩波版〝魯迅選集〟第十二巻をひもとき、魯迅が多喜二の労農葬によせたと伝えられる弔電を読んだ。

同志小林の死を聞いて

日本と支那との大衆はもとより兄弟である。資産階級は大衆をだまして其の血で界をゐがいた、又ゐがきつつある。

しかし無産階級と其の先駆達は血でそれを洗つて居る。

同志小林の死は其の実証の一だ

我々は知つて居る。我々は忘れない。

我々は堅く同志小林の血路に沿つて前進し握手するのだ。

魯　迅

中国の旅のなかで、私は二人の緑丘先輩にあつた。一人は日中貿易促進会理事長（当時）の鈴木一雄氏（昭和五年卒）で、他の一人は日本製鋼所輸出部長羽鳥忠二氏（昭和十三年卒）である。鈴木氏は周知の通り戦後の困難な情勢の中で、一貫して日中関係の打開、日中貿易の拡大にとりくんでこられた第一人者であり私もかねてから氏の指導をうけていた。氏は建国十五周年の国慶節に参加したのち北京に滞在して、貿易拡大、技術交流などの仕事にあたっておられた。氏とは北京で同じ民族飯店にとまっていたが、お互いに日程が忙しく、時折食堂で顔をあわせる程度で懇談の機会がなかった。私たちが西北（西安、延安）から北京に戻った十二月三日の夜おそくホテルの入口で鈴木氏とあった。氏は「この数日間北京はコンゴ（レオポルトビル）人民の斗争を支持する集会とデモですごかったよ」と話された。

氏は天安門上で外国友人の一人として、毛沢東主席ら中国指導者との集会に参加したことをあとで新聞で知った。アジア、アフリカ、ラテンアメリカの民族解放斗争を支持する中国人民の集会・デモのスケールの大きさ、激しさについてはきき知っていたが中国滞在中残念ながらその現場にぶっからなかった。このときも北京は街角のスローガンをのこして、すでに静けさをとりもどしていた。なお鈴木氏はその後日中貿易促進会理事長の職を退き、アジア、アフリカ経済の新しい仕事につかれるときいている。

羽鳥氏とは十二月十四日の昼、西湖のほとりの杭州飯店の食堂で偶然お会いした。その時は先輩ということがわからなかったが、翌日杭州から南昌を経て広州までの飛行機で、隣りあわせて坐りいろいろ話しているうちに先輩ということがわかった。氏は商社の嘱託として広州の秋季交易会に参加したのち、北京、上海などをまわってこられたのである。ともに中国ははじめてだったので、お互いの見聞を中心に、中国の歴史や日中関係の現状、社会主義中国における自由の問題などにふれて時にやや論争がかったが、おかげで時の経つのを忘れた。十二月半ばというのに、初夏を思わせるさわやかな風の吹く広州飛行場で、広東放送局の田蔚先生らに迎えられた私は、そこで羽鳥氏と別れた。

（一九六五・七・二八）

【写真説明】魯迅先生の墓前で（上海、虹口公園）向って左から二人目筆者

（日本中国友好協会全国理事、函館支部常任理事）

私儀七月二八日日中貿易促進会定時総会において日中貿易促進会名誉会長に就任いたしました。過去十五年に亘る御支援と御鞭達を重而厚く御礼申し上げます。引続き日中友好と日中貿易促進に努力すると共に近く家族を伴い北京に赴き、彼地にてアジア・アフリカ経済問題の研究に従事する予定でございます。

日中貿易促進会名誉会長　鈴木一雄（昭五）

日立商品特約店

日本電氣機器株式會社

取締役社長　天野雅司（大正15年）

本社　サクラバシ日立シヨーストール

大阪市北区曽根崎新地2丁目50番地

電話大阪（361）8871番（代表）

大阪（361）4602番（夜間専用）

緑丘 余話

小樽の歴史 〝一〇〇年の小樽〟写真集

小樽市役所から

若き日の小樽を語る資料にも

小樽市役所は慶応元年から昭和四〇年にわたる一〇〇年の歴史をまとめて〝百年の小樽〟＝写真集＝を発刊した。六四頁、写真をふんだんに使ってレイアウトしたスマートな編集。

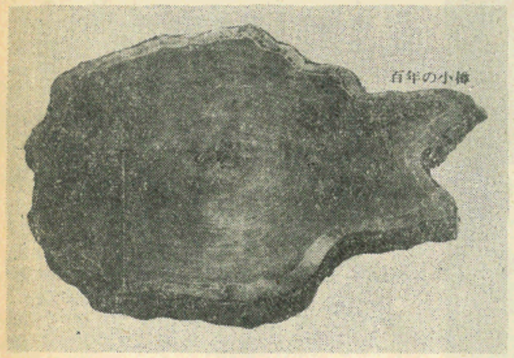
小樽で生活した人々にも小樽の夜明けが何時であるか知る人は少ない。この〝百年の小樽〟によれば十七世紀初頭慶長年間（一五九六―一六一〇）福山の八木勘右衛門が和人として初めてヲタルナイで漁業を営んだというのがそれである。

貴重な資料を豊富に使用されているが安政五年のヲタルナイや、高島（蝦夷旅行日記）絵図面、明治四年信香町に常夜灯のある写真、明治五年―十二年頃の小樽、銭函風景、明治十三年一〇月二十四日の試運転列車弁慶号の入舟陸橋を渡っている写真、明治末期から大正初期の頃には開校当時の高商の写真も掲載されている。

大正初期の中央通り、電気館と仲見世通り、色内大通り、稲穂第一大通りなど当時の人々が見れば学生時代を憶い出すであろうし昭和中期の卒業生にはまた自分のイメージと比較して楽しい姿を憶い浮べるであろう。越崎宗一氏の〝小樽高商生いたちの記〟も大正五年の商業実践室風景写真をカットに使用していて楽しく読ませる。

巻頭に伊藤整氏著「幽鬼の街」の小樽市街の描写を、小林多喜二氏著「転形期の人々」の冒頭「港の水は青々と深くて、底が岩質だった。……」を引用して〝百年の小樽〟の最後のページをおさえている。

この写真集は定価三〇〇円、小樽市役所発行、初版は部数少なく、今再版に入っていると聞く。希望者は小樽市役所に問合せられたい。



歌集〝風花〟出版

会津若松　小野寺　佐氏（昭一一）

小野寺佐氏（昭一一）はこのたび歌集（第七集）〝風花〟を発表した。

同氏は会津詩人協会々員、会津短歌会監事として有名である。

蔵王路を行く
弥彦詣
風　花
病床の春
春の鶴ケ城趾

の短歌と二つの詩、K氏の死、ある五十男の歌からなる。

蔵王路を行く

この年の落葉松林散ぬれば明るき山にさびしさの満つ
金瓶村の端に眠れる茂吉大人の奥津基廻り芒さやげり
この世にはあらぬ眺めと想いつゝ遙かに見下す大御釜池
風寒き宝の河原の六地蔵の朱の衣に秋の日翳る
蔵王山夕づく谷々翳深く萬山粛条秋深かき色
夕されば雲の流れのうすれつゝ蔵王の頂き荘厳に昏る

マッキンノン先生 招聘運動着々と進む

東京総会でマッキンノン先生を日本へ呼ぼうという苫米地先生の発言はその後東京在住の緑丘会員有志の間で招聘資金の趣意書を企案、緑丘会理事長、支部長各年次約十数名の方々に有志として発起人となってもらい、昭和十七年卒までを一応対象に趣意書の発送を開始した。

趣意書起案から発送まで一週間もないあわただしさであったため不行き届きの点もあったが、この「緑丘」を見て趣意書の届かぬ中に申込まれた緑丘人もまた多数あった。

肝いりの会員有志は、先生訪日滞在中の宿舎についてもよりよい心当りを手当しておる様子、またマッキノン夫妻の健康状態をも心配して知人、友人を通じて情報をキャッチ、マ先生はすこぶる元気であるとの報告も「緑丘」編集部に入ってきた。九月二十日現在の基金申込状況は左の通りである。

本部受付	五五五、〇〇〇円
東京支部受付	三二九、〇〇〇円
合計	八八四、〇〇〇円

なお、この基金募金は最初の予定の締切を延ばして十月末とする由。

あと一ケ月に迫ったマ先生の招聘に支障をきたさぬよう「緑丘諸兄」の格別の御後援をお願いしたいと。

マッキンノン先生を日本へ招待の基金募集

緑丘人有志でマッキンノン先生を本年11月日本へ招待しようという美わしい運動が開始されました。振って御参加願います。

1. 目標金額　120万円
2. 募金一口　2,000円
3. 募金受付　東京都中央区銀座東七丁目六双葉ビル　緑丘会東京支部事務局神田正英宛　又は本部
4. 締　　切　昭和40年10月31日
5. 応 募 者　緑丘人及び本人の知人

お詫び

ことは急を要しましたので、皆さまのご諒解をえずして、貴名発起人有志のリストに、のせていただきました。どうか、勝手な計いをお許し下さい。

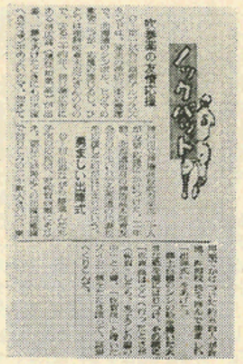
苫米地先生のお言葉をうけて発起人有志のひとり
大谷敏治

緑丘通信

☆大一五　大平善梧氏（一橋大学教授）八月二十四日羽田を出発して、三週間のヨーロッパの旅に。九月二日から六日間、イタリアのストレサに開催されるモンペルラン協会の十五回大会に出席。

緑先きへ白百合の花咲きつぎて
この国に秋近づくらしも

☆八月二十日朝日新聞夕刊ノツバット欄（高校野球エピソードの欄）に「吹奏楽の友情応援」と題して左の記事を掲載。

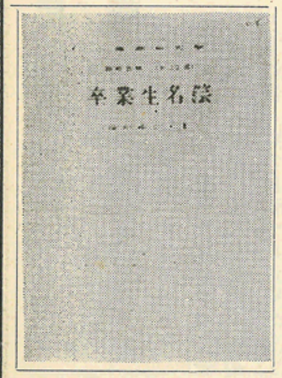


◎第一試合三塁側アルプススタンドは、遠来の帯広三条応援席で、北海道のシンボル、ヒグマの敷物二つが応援の旗じるし。これに加えて神戸市立神港高校吹奏楽部二十人が友情応援にかけつけた。二年前北海道出身の神港高育友会長本間広松氏（昭八）のキモいりで北海道の代表校を応援したのがはじまりという。

☆唯是震一氏（昭二二）は九月四日札幌北海道新聞社八階ホールで彼の作品による現代邦楽演奏会を開催した。同氏は小樽高商（当時経専）を卒業後東京芸大に入学、卒業してコロンビヤ大学で作曲法を学び、在学中に音楽家のひのき舞台であるカーネーギホールでニューヨーク、フィルと協演、一躍クローズアップされた。以後フランス、イスラエルなど世界各国で活躍、国際的演奏家として注目されている。昨年から一年間コロンビア大学音楽部の講師として教壇に立っていたが、このほど帰朝第一回の演奏会を開いたもの。氏の作品は邦楽のもつ多様なリズムと楽器の特質を新しい手法で生かしたもので万場の聴衆を魅了した。

札幌から旭川への演奏旅行を終えた同氏は十二月から一年、再びコロンビヤ大学へ向うと。

昭八会三十五周年を目指して名簿を完成



あと三年後に卒業三十五年を迎える昭和八年は宅尾五郎、鈴木三七両氏が中心となって名簿の整備を一月から急いでいたが、八月をもって一応整備を完成した。今後はこの名簿を中心として互に連絡を密にし、来る四十三年には三十周年にもまして盛んな総会を開催すべく積立を開始し、会員の八〇％までその実行に入ったという。

生涯かけたアイヌ語辞典
完成一歩手前で病没

江差高校　故知里高央氏（昭七）

過労と心臓病のため二十五日死去した江差高校教諭故知里高英さんをいたむ江差高校葬は、八月二十八日しめやかにとりおこなわれたが、氏が実弟真志保氏から引き続き、生涯をかけたアイヌ語辞典（アルファベット順に編集）が未完のままとなっているのが惜しまれ、なんとかこれを出版して氏へのはなむけにしようーと同校関係者は真剣に考えている。

胆振管内登別町のアイヌ部落に生まれ、アイヌ語の世界的権威、北大教授、知里真志保さんの実兄にあたる高央さんは、昭和七年小樽高商卒業後、登別町幌別中、函館商業高校の教諭を経て、二十九年に江差高校に着任。いらい十二年間同校で教べんをとってきた。真志保さんが四年前になくなってからは、「アイヌ語辞典は自分以外にやる人はいない」ーと、遺志を継いで授業のかたわらひたすら原稿執筆に取り組んできた。

英語はもちろん、古文や漢文の判読力にすぐれた能力を持っている高英さんは、真志保さんのなしえなかった分野にも力を入れたいと、たいへんな意気込みで、アルファベット順で、しかも語源解説を中心にした系統的辞典の編集に打ちこんできたが、ついに未完成に終わった。

弟から兄の手に移った遺稿はすでに九分どおり完成しているので、これを仕上げて出版、氏への最後のはなむけにしようと、学校関係者はいま真剣に考えているが、アイヌ語にくわしい研究家でなければ、膨大なカードを整理することもむずかしいので、できれば兄弟には縁の深い金田一京助博士か北大に依頼したいと協力先を捜している。

（北海道新聞掲載）

日本近代文学館理事長に選ばれた

伊藤整氏（大一三）

○…「いや、なくなった高見（順）君のように口八丁手八丁にはいきませんよ。彼は日本近代文学館建設のフロシキをひろげて軌道にのせたんですが、ボクは慎重型でね。高見君ほどの実行力があるかどうか…」と、けんそんする。しかし温厚篤実な半面、そのねばり強さは文壇でも定評。七年間にわたる「チャタレイ裁判」で闘志をみせたことでもわかる。また三十七年には「日本文壇史」で菊池寛賞を受けたが、その資料あつめには、古新聞古雑誌をたんねんに切り抜き、整理した地味な努力と執念は、なみたいていのものではなかった。

文学館の仕事も、副理事長として高見さんがたおれたあと、八月十六日に文学館の起工式にこぎつけるまで、小田切進専務理事と組んで、学界、文壇、マスコミ、政財界、都庁との交渉をはこんできた才腕は高く評価されている。

スタッフ、設備運営費の財源など、問題が山積している。具体的な青写真は、来春ごろから検討するといっているが、関係者の頭が痛いのは、はじめて経験するビル管理。資料保存のための乾燥装置、エレベーター、冷暖房、電気設備、保安などをどうするか。「建て物ができてみないとわかりませんが、なにしろボクたちはしろうとなのでね…」

○…昨年三月、東京工大をやめて一つ職業がへった。本職の創作活動の方は—

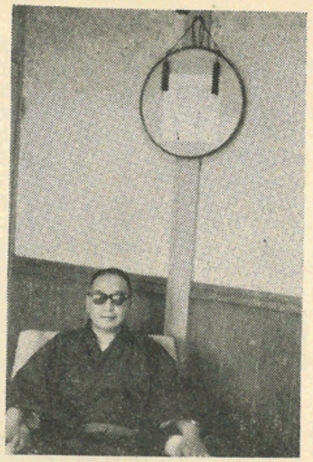
「ボクがやりかけの〝日本文学史〟の内容は、文学館の仕事と関係しているので、そのつもりでやっています。小説も前に書いたものを二冊単行本にしたいとおもい、ひまをみて書きなおしているのですがなかなか…」それができたら来年さらに新しく書きおろし長編を企画したいと意欲じゅうぶん。編集者たちから「文学館がいそがしいから…」と同情の声もあるらしい。

（サンケイ新聞掲載）

NHKで

僕の書斉

小野寺　佐（昭11）
（小野寺産業株式会社々長）



「僕の書斉」を今月担当せよと編集子から連絡があったと聞いた時、一瞬僕は自分の耳を疑った。「僕の書斉」とは、学者か学校の校長、教授級か特殊研究家の物であり、僕のような一中小企業の経営者には縁遠い話であるからである。それも、ことづてしてくれたのが、三谷晃一君（福島民報＝編集局長、昭一七）であったので、ハハア　三谷君は「緑丘」の蕃目君の真似をして、民報紙上の文化欄に「書斉」欄を設けるプランだなと直感した。だがまてよ、福島民報は県内はもちろん数県並に中央にも購読者を有する大新聞である。これは、うっかり引受けられないぞと尻込みした。

一方「緑丘」なら同級生の蕃目君の……いやいや「緑丘」ならなお困る。僕を教えた諸先生、諸先輩の眼が光っていてなお困る。これは、とんでもないことになりそうだ。しかしどちらだろうなと思案したが、三谷君に念を押すにしくはない。どちらに載せるのだ、僕に間違いないのかと電話したら、彼氏ニヤニヤして君に間違いないという。これでは丸で恥をかかねば書きようがないではないかといって見たが、今ではそれも引れ者の小唄である。恥を恥と思わねば恥ではないと聞いている。ええままよと改めて筆を執ったが脳裏に浮ぶのは矢張り教えを受けた諸先生、御世話になった諸先輩の顔である。それに、この欄は何のためか広いスペースを「緑丘」は取ってある筈である。これは困ったことになったと思ったが、日頃筆心臓（？）の強いのでは、人後に落ちぬ僕のことだ。日頃御無沙汰している恩師、先輩に「今日は」の挨拶替りにこの欄を借りてやろうと決心したら、不思議に度胸が湧いてきてペンが執れた。

さて「僕の書斉」といっても前述の通り学者ではないから書斉らしい書斉はない。勿論何とかして仕事に追廻されることが終ったら、自分だけの個室で好きな文学書でも読み耽るのを一生の念願としているが、いつのころやら判らない。写真は僕の事務室である。いや、事務室兼応接室兼商談室兼、兼が幾つあっても足りぬ兼室である。一日の大部分をこの兼室の椅子に座った切りである。改めて机上を眺めてハハア編集子の意図読めた。これだなと思った。机上にある物は僕の事業の専門書は殆んどない。書なぞ読まなくとも何十年の経験で自分の事業は、カンで判っている積りでいたらしい。これはいかん。では在る物は何か。ある、ある、読みさしの読みたいと思って求めただけの本が。永年の蒐集癖で塵をかぶったまま雑然と並んでいる。詩集、歌集、文学全書等々が、銀行簿、資金繰表の間に雑然と挾っている。それはまるで僕の精神生活をそのまま露呈していて妙である。

そのうち懐かしいものは、高商時代のテキスト村瀬玄先生の「簿記詳論」上・下二冊、苫米地千代子さん（苫米地先生の奥さん）の歌集「籠る命」西野嘉一郎博士（東芝時代の先輩）の「経営分析」三谷晃一氏の詩集「戦場」、その間に拙著歌集「悲天」詩歌集「春修羅」歌集「浅春」が申訳けなさそうに小さく挾まっている。高商を出たお蔭で会社勤めも経理面を歩いてきた。経営者となって団体役員等ではきまって、監事とか監査の役目を仰せつかる。何程か経理の専門家と思われてるらしい。お蔭で経理を撫でることは覚えてきたが、その真髄を究めるには程遠い。いまさら経理は知らぬといっても世間が許してくれそうにもない。さればとて事業に没頭せず研究書を読んでいるわけにも行かぬ。金繰りや銀行通いの方がより先行するかららしい。仕事から解放されたら、その時こそと思っているが、その時は経理の方も必要なくなる時であろうか。同級生の小島典春君、太田末穂君（公認会計士）の如く金儲けしながら研究に打込める人が羨ましい限りである。だから経理の方は、なかば諦めて戦後書き散らした詩集、歌集を一冊に纒めようとして昨今に至り原稿を整理している。

先達って、伊藤整先輩ご来若の折見せて見よと仰せられたが、詩人出の先生にはとてもお目に懸ける業物でないと尻込みしたが、一旦公刊しようと思い立ったら、どうしても先生のお眼を通さずには、不安になってきた。この欄をお借りして、予めお願い致します。伊藤整先輩は、その節「遊於芸」と色紙を書いて戴いた。味わい深い座右の銘となり僕の脳裏を離れない。額に入れて一生銘記する積りで飾ってある。唯一の僕の書斉の装飾であり、いつも先生と一緒にいる心地になることができ、ありがたいことだと思っています。

次号予告

次号「僕の書斉」は札幌市立図書館長小梁川重彦氏（昭一〇）におねがいしました。

自薦他薦を問わずごすいせん下さいますようお願いします。

原稿用紙一六字（一行）でねがいます。

まんぴつ五人集

次回

石田平八（昭二）
山口恭一（昭一九）
川上貞光（大一五）
山下政道（昭一二）
坂井貫二（昭一八）

製網三十八年

広瀬久一（函館支部）

緑ケ丘を離れて三十八年余、終始一貫製網の業に関係しながら、未だ会心の網を作り得ぬ自分のウカツさを回顧して見たい。

入社初頭に胸に焼付けた腐らない網、不漁の場合でもせめて道具だけ翌年のために繰越し得る耐久力のある網を作りたいという念願は終戦五年東洋レーヨンの開発した合成繊維アミラン（ナイロン）を物することによって達成した。しかもこの時は耐久力が目的であったが、実施の結果は漁獲率が大幅に増大するという嬉しい思いがけない副産物まで出て喜んだが、二十八年八月ヴァンクーヴァで思いも寄らぬ事態に直面呆然とした。注文に基いて送付した鮭鱒用アミラン網の使用効果を確かめに訪問した処「如何に丈夫で長持してたとえ値が割安でもかような網には魅力はない」突けんどんな挨拶、それでは何が魅力かと突っ込んで聞いたのに対してただ「魚がより多くかかるということだ」それならこの網に対して感謝してくれてもよい筈だと思ったので、勢い込んで追求したところ驚いた。色が悪くて鮭はかからんという。馬鹿馬鹿しい「色に魚が引掛るか」といいたい気持だったが。

日本で前例のない程よく漁獲率がよいと歓迎された網が反対のカナダで不漁網の烙印を押されたとは／材料も同じ作り方、染方も同一、出来具合も同じで魚も鮭鱒である、不可思議といわざるを得ないが、それが私自身のウカツさからであったことが、後で調査研究の結果で判明した。それはカナダの漁師と日本の漁師の作業時刻の相違に基くものであったのだ。カナダ人は昼間操業するが、日本人は夜間操業である。そこに注意力を注がなかったのがウカツであった。色はその種類で反射光線の量に差違のあること、また同じ色でも外気の明暗、夜と昼では反射率の異なることはいまさら申し上げる必要もありますまいが、魚獲率と光線の反射率とは互に反比例するという現象がこのとき以来の急激な研究によって知り得た誠に恥しいウカツな話でした。このことあって三、四年後皇太子殿下が工場へ御見えになった際御説明申上げてる途中、魚はどんな色を好みますか、とのご下問に、魚になったことがございませんので確かなことは申上げられませんが、怖れて遠ざかる色と平気で接近する色とがございますと憶面もなく申上げて冷汗をかいたことがある。魚になったことがございませんのでと前置しながら魚になったようないい方をするほどのウカツさだからこそ、今日も未だに魚の好む色を摑み得ないで居る。

ともあれカナダの漁師は道具によって漁をするが、日本の漁師は手腕（ウデ）でする、妙ないい廻しだがカナダの漁師は漁場に恵まれている大きな生簀と同じような場所で自由に投網する、そこには大体平均に魚が游泳しているから、獲れる量は網の良否によってのみ定まるが、日本の漁師は広大な荒海の中を苦心惨澹して魚道の探索をしなければならない良漁場すなわち良い魚道を見出さない限り漁は不可能である。その魚道を探し当てることが、漁撈技術家の手腕であり、力量である。従って日本の漁師はカナダの漁師ほど網に対するクレームは付けない。しかし鬼に金棒で日本の漁師にカナダの人の使う物以上の優秀な網を供給する当然の責務は負わねばならぬ。

いままでの網やは漁網に接触した魚を洩れなく完全捕獲できる網を作ることにあったが色と罹網率との関係が明らかにされて以後は急に責任範囲が拡大された。離れている魚を誘き寄せる色仕掛けから聴覚に好感を与える音律やら極度に発達しているといわれる魚の嗅覚に迎えられ易い芳香まで。合成繊維の世に出たことによっていろいろの生甲斐ある時代になったものだと感謝して居る。ついでに私には関係ないが防犯網という物もせめて完全防止、完全捕捉できるものを作って貰えないものか。

次は大阪の石田平八さんにお願いできましょうか。

（昭二　函館製網船具取締役）

随想

荻村茂雄（東京支部）

夏の終りに緑丘の時代を回想する時、戦争も末期に近く、少ない休暇を親しい学友と道南の旅に過し、旅程のあわただしさにもかかわらず、その間の珍談も盛沢山で結構楽しかったものである。

戦時とはいえ、地理的にも緊迫感が少なく、心の趣くままに、支笏・洞爺の秋水に遊び、湖水を囲む青嵐を終日飽くことなく吸収し、自然に溶け込むことのできたのも幸であった。すなわちそのスケールにおいて及びもつかぬが、李白の洞庭に遊んだ詩情を想い、人生を論じ、かっ興ずるに従って浩然の気、大なるものがあったのである。

今日でも旅して自然やその土地の事物に接することが好きではあるが多忙な家業に追われおもうにまかせず、商用は主として関西に偏し、従って東北、北海道へは訪れる機会をもたないが、先日久しぶりにて、北斗寮同期の旧友と会食し、道内在住の諸兄より近況を耳にし、想い新たなるものがあった。最近では月に一度の商用の途次、少しの時間を割き京洛の社寺を訪れまた大和路を散策し、庭園や構造物をその歴史的背景と併せ観、つかの間ではあるが、胸中の塵を洗い落すすべとしている。

次回は東京都中野区鷺ノ宮六の八六八山口恭一君（東京海上）にお願いします。

（昭一九）

大阪の生活

松村義公（大阪支部）

私は栃木県の田舎町で少年時代をおくり、その後北海道、東京などで生活したあと満州に渡って鞍山市で終戦を迎えた。だから私の大阪での生活は終戦引揚後からで、それまでは全然馴染のなかった土地である。

若い時代、私は大阪という土地がどうにも好きになれなかった。何となく垢抜けしない土地という感じが頭から離れなかったし、関西弁の間のびした調子がどうにも我慢がならなかったのである。関東地方の田舎で育ち東北弁に近いなまりをしゃべる私が大阪を垢ぬけしない土地と考えたとか、関西弁が耳障りであったなどというのは柄にもない言い分であるかも知れないが、とにかく大阪という土地が好きになれなかったことはどうしようもない事実であった。

こういう私だが、終戦後大阪に住み始め大阪の生活が長くなるにつれて次第に大阪の生活が好きになり、今では日本中で大阪程よいところはないと心底から思うようになってしまったのである。

私が大阪を好きになった一番の理由は、大阪の人達が持っている庶民的な雰囲気の故である。田舎生れの私の身についた庶民性は年をとるに従って、私に肩の張る生活をいよいよ憶劫がらせるようになってきたが大阪はそういう今の私には誠に格好な土地柄なのである。あまり形式にとらわれない生活、体裁などは二の次ぎの生活ができるなら甚だ気楽でよろしい。

大阪のバスや地下鉄の乗り場には切符を立売りしている老人や小母さんが居る。駅の窓口で買い入れた回数券を一枚売りして回数券の僅かな割引差額をもうけようという商売だが、汽車の特急券や寝台券をヤミ値で売りつけようというのとは訳が違う。然しもぐりの商売であることには違いないので、時々警官が道路交通法違反だ、といささか苦しい名目で追い払うが、またすぐ戻ってきて店(?)を出す。乗客たちもあたりまえのことのように彼等から切符を買う。歩きながら彼等が差出す切符をもらえばいいので自動販売機に一々硬貨を抛り込んで切符を手に入れるよりはるかに便利だし、愛想もいいから駅の窓口でつっけんどんに切符と釣銭を放り出されるよりどれ程気持がいいかわからない。相手がもぐりの商売だからといっても、何も偽造切符を売りつけるわけではないし「一寸も不都合なことあらへん」というのが大阪人の考え方である。同じ関西でも京都などではこの商売はなりたたないらしい。恐らく粗末な服装をしたこれらの人達を相手にすることに少々ためらいの気持がはたらくからであろう。ところで地下鉄難波駅のこの小母さんたち、皆さんのお蔭でこの商売でどうにか生活ができていることは誠にありがたいことだと、山野炭礦爆発事故の義捐金として四人共同で一万円を新聞社に差出したというから、今時誠に心あたたまる話ではないか。

いつか「おやじバンザイ」というテレビの娯楽番組に宇治園という大阪でも指折りの銘茶の老舗の主人と息子達が応募出演して視聴者を笑わせスポンサーからの金一封をありがたく頂戴して帰っていったが、東京あたりの同じような老舗のご主人などには到底真似のできる芸当ではないように思う。

とにかく大阪という土地、そしてそこに生れ、そこで育った人々には甚だ味わいがある。「めし」の味とでもいうべき味わいである。そして私が大阪は日本中で一番住みよい土地だと思うようになった理由もそこにある。なるほど関西は酒もうまいし、食べ物も結構である。また名所古蹟にも恵まれている。私の住んでいる堺市浜寺などでも、そう遠くないところに仁徳陵などの御陵や古墳が沢山ある。最近急速に造成された団地の近代的住宅群を眺めながら、遠い昔、神話時代を経て日本という国が、歴史上実際に誕生し始めたのは、このあたりからであろうなど、思いつつそのあたりを歩きまわることは、このごろ特にきびしい経済環境の中で毎日あえぎ続けている私達のストレス解消に大いに役には立つ。

しかし私が日本中で大阪が一番好きなところだと考えるに至った最も大きい理由は、それらのことよりも大阪の人々が生れながらに具えている庶民的雰囲気の故である。

次回は四国の川上貞光君に「貞光一家言」をお願いします。

（大一五　大阪窯業耐火煉瓦株式会社）

傷口か　感傷か

佐藤清治（東京支部）

「あれから二十年」という見出しの終戦記念日の記事を新聞や週間誌に散見して、「この八月十五日が原稿の締切り日です」という内藤君の依頼を不覚にもすっかり忘れていたことを思い出し、それこそあわてふためきながら、のっぴきならぬ気持でペンをとることにした。

繰り言に聞えるかも知れないが、話を二十年前の時点にもって行こう。八月十五日、私は朝鮮の片田舎に住んでおり、ちょうどその時は胸部疾患を再発させて床に親んでいたが特別放送というので、床の上に傷痍軍人のような白衣を着て正座して玉音を聞いた。信じられない思い出であった。その一日前に「重慶政府が降服するらしい」というデマが飛んでいた位であったから私はぽかんとしてしまった。これからどうなって行くのだろうか等はとても考えもつかぬことである。忙然として塀越しに見える。たんたんとした朝鮮特有の赤土の道に敷かれた砂利が、真夏の太陽に灼熱されて、白々と果しなく続いているのが目に痛かった。そして妙に森閑として一切の物音が杜絶えたような静寂の瞬間が、とてもとても長く感じられたし、あるいはもっと長い間にたったのか。トンカン、トンカンという単調な砧の音が、遠くほのかに流れてきて、ものうく意識の中に蘇ってくるまでにどのぐらい経ったのであろうか。時の流れがピタリと止って、想念が中絶したとでもいうのだろうか、映画の駒がストップした一瞬のように何を考えていたのか今でも分らない。ただ白々とした砂利道と、その上をゆらゆらとゆれる陽炎だけが印象的であった。

この印象から数日を出でずして、私の会社に配属されていた徴用学徒（当時戦列に参加しなかった学徒は産業戦士として民間企業に徴用された）三六名が一夜の中に全員逃亡して宿舎は全くの藻抜けの殻となってしまっていた。私は学徒の係りであった関係で、密接に監督官庁との連絡を義務づけられており、これはえらい失態だわい、大目玉だけでは済むまい、と飛んで連絡に行ったところが、肝腎のお役人は雲を霞と姿を消しており、事態がのみこめなかった。私にはまだ敗戦という事態の認識ができなかったのである。

それはさておき、私はこの学徒を扱いながら、自分の属した青春の頃をなつかしく回想するのが常であった。それはちょうどこの学徒達と同じ年代のことであり、いうまでもなく緑丘の玉の井寮の三年間の生活であるが、何の脈絡もなく、次から次へと、走馬燈のように廻る想いはつきることがなかった。あの小路、この小路、そしてあの坂道、塀の道なぞ。酒がしたたり、おでんの匂う小樽の街々であった。自由で、大らかで、開放的であった自分の学生時代と、毎日をその目的すら摑みえず、徴用学徒という名の下に、ただ黙々として煉瓦を背負い、トロッコを押して激しい肉体の労働に従事しながら何んの希望もなく、また学徒出陣の戦列にも加わらなかったために日陰者めいた意識すら懐いて働いていた学徒達の生活とを比較して、私は感慨無量のものがあった。

いま顧りみてその彼らに私は何をしてやったのだろうか。その意識さえ疑わしいように思えてならないのであるが、「あれから二十年」のこれも傷口なのか、感傷なのか。所詮人間はこんな苦しい想いを多少なりとも懐いて行くものなのであろうと不覚にも、齢五十を目の前にして気付いたことであった。

次回は山下政造君にお願い致します。

（昭一二　日本セメント株式会社）

雑感

亀井尚一（神戸支部）

これまでまんぴつ五人集に昭和十八年卒が誰一人として現われず、また同期生が書いていないから執筆指名も廻ってこないという悪循環を繰返していた。何とか一人でもこの欄に筆を執り、そしてそれを同級生にバトンタッチをして一八年の存在を示したいと思っていた処、そもそも市橋さんから次のバトンをという御要望をいただき勇躍筆をとったものいざとなると何を書いていいかわからない。しかしとまれ筆をとったからにはと、思いつくままを書いて見たい。

× × ×

常日頃思っているのだが、どうも私達の同期生の会合が他の期と比べて活発でないように思われてならない。これはわれわれの前後の期もそうであるように思う。何故であろうかと考えて見ると、無理からぬ原因があるようだ。第一はわれわれが学生生活を過ごしたのは大東亜戦争の真最中で、軍事教練や勤労作業等でゆっくり学校生活をエンジョイする間もなく、兵馬倥偬の間に半年も繰上げて卒業を余儀なくされ、数多くの同期生がいわゆる特攻隊として散って行った。静かに友情を暖め心を交流させるというよりか、一人一人が死というものに直面し、祖国のために死ぬということについて如何に自らを納得させるかということに精一ぱいという状態であった。

そして戦が終り平和が訪れたが、互に戦地から引揚げてその無事を喜び、友情を確め合うほど戦後はノンビリしていなかった。われわれの就職はいわば兵役までの腰掛就職であり、また雇う方もその積りであった。その上就職先も軍需産業やこれに類するもの多かったので、われわれの大部分は戦後職を失った。混乱した戦後、自らの生活手段を得るために、われわれの同期生は苦斗した。そうしたことが重ってわれわれの期の同期生活動が不活発なものに

なったのだと思うが、そうかといってわれわれ同期生同志の友情が薄いかというと、決してそうではなく、異常な時代を過しただけに、同期生同志相想う心は却って強いのではないかと確信している。

私は昭和三十六年から三十九年までパキスタン国カラチに在勤したが偶々時を同じうして同期の星野賢吉君が三菱商事カラチ支店へ赴任、お互に地球の果みたい処でよくも遭ったものぞと、奇遇を喜び、私の在勤中お互に行き来をして交友を暖めた。私は単身であり、彼は奥さんを連れていっておられたので、ずいぶんと奥さんの手料理を御馳走になったものだ。時には彼の家へ彼の悪友（彼のアパートの住人で、英国人、オーストラリア人、アメリカ人等）を招んでスキヤキパーティをやる折などは、私がねぢり鉢巻で手伝いに行ったりして、皆にこんな処で級友が一緒になるなんて何と幸福なんだと祝福されながら同期生交情の楽しさを充分満喫した。筆不精が禍いして、帰国してからも、なかなか文通も思うにまかせないが、帰国して一年経った今日でも、カラチで過した同期生交友の楽しかったことを忘れることはできない。

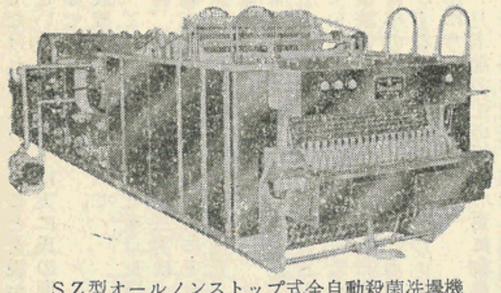
数多い同期生の中だから、一人や二人は同期生に迷惑をかけ、背を向けて去って行ったものもあるかも知れないが、大多数の同期生は、いついかなる時にいかなるところで会っても、直ぐにヤアヤアと肩を叩き合って打ちとけあうような一脈相通ずるものを持っているのだと信じている。たまたま七月の緑丘会報で札樽一八会の記事を読んですごく懐しく思った。われわれも卒業してすでに二十二年、お互に生活も落ち着き、社会的にも重要な地位におられる方も多いと思う。われわれ同期生が全国的な規模で集ったのは、戦後間もなく、高田さんの呼びかけで、小樽の正法寺で同期戦没者の慰霊祭を行なって以来、ないような気がするがここで一つ、二十五週年を期し、相集いたいものであると熱願している。

次のバトンは札幌の坂井貫二君にお願いしたい。

（昭一八　東京銀行神戸支店次長）

（まんぴつ執筆者）

（客員）松尾教授
（大三）高橋徹男、下吹越栄吉
（大四）八木康之助
（大六）伊東小四郎
（大八）戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
（大九）菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
（大一一）宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重
（大一二）田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿式、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜丹夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
（大一三）古関周蔵
（大一四）畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
（大一五）増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善梧、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平
（昭二）黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治
（昭三）佐竹繁寿、樋山三郎
（昭四）小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
（昭五）池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助
（昭七）八家要
（昭八）土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄
（昭一〇）篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
（昭一一）浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、蓁目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷栄作、上野茂
（昭一二）内藤好生、皆川荘一、西谷作太郎、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰


SZ型オールノンストップ式全自動殺菌洗壜機
（20列4槽式）

営業品目

全自動殺菌洗壜機　自動箱出機（アンケーサー）　自動給壜装置　自動壜詰機　自動打栓機　自動栓押機　自動捻子栓機　自動封冠機　自動殺菌冷却機　自動貼紙機　自動温壜機　自動転倒検壜装置　自動洗缶機　箱詰機　自動包装機　食品製造機械　各種コンベヤーその他附帯設備一式

新大阪造機株式会社

本　社　大阪市東淀川区三津屋中通5丁目15番地
電話大阪(302)局 1 2 5 5(代表)
東京営業所　東京都中央区西8丁堀3丁目2番地 宝ビル7号
電話東京(551)局 2566・3464・5539

緑丘人物譚 (11)

日本新薬株式会社
取締役社長
緑丘会京都支部長
森下弘氏（大14）

先頃墓目さんの御老父の脳卒中救急のため、**チトマック**の緑丘リレーに主役を担った話題の日本新薬森下社長を訪ねた。

東海道線京都駅の西へ一つ目、西大路駅の傍、目前に浮かび上がる新しい増設途上の工場の一部が躍進しつつある同社の近況を映し出してくれる。頂戴した御近影に見られる通り、氏は小樽高商、九州帝大と学生時代を俊足のランナーとしてスポーツに鍛えられた七二キロの立派な健康体が、還暦のお歳を過ぎられたことなど全く想像も及ばない位、その語られる若々しい気迫の言葉と共にそのまま、製薬会社社長のレッテルにぴったりと当てはまる。もっともお手のものの、**ローヤルアビ**は常飲しておられるそうである。

先ず同社の沿革をお尋ねすると、大正八年創立、昨年四十五周年の記念式典を挙げられ、現在資本金八億七千万円（創立当時の約七千倍）四個所の工場、二研究所、各地の支店営業所と従業員一、一〇〇名を擁しその初め京都新薬堂より発して、日本の、そして更に世界の新薬へ、その名の通りの輝しい飛躍の歴史を綴ってこられた。氏は昭和八年入社、営業部長、常務、専務を歴任して同二十一年には早くも若くして社長の重責を継ぎ、戦中戦後の辛酸を経られたと聞きます。すなわち、もはや日本の逸話となっている**サントニン**の国産化と、その原草**みぶよもぎ**の栽培にまつわって同社と氏の苦難と隆昌の裏表の絲があざなわれていると言えよう。

当時熊の出る北海道の辺境の地に原草の委託栽培によって結ばれた農家との緊密な関係が、今なお替え難い無形資産であるとの氏の言葉に、同社の風格と同氏の人柄が偲ばれて聞く者の感動を呼ばずにはおかない。同社が再三の栄えある受賞に浴されたのも宜なることである。

日本新薬が医家向治療薬を主体としているため、一般向大衆薬のような華かさに欠け非常に地味な存在であるが、ずいぶん数多い製品を発売しておられることを初めて知った。**アミビロ**（神経用薬剤）、**アトホーム**（総合胃腸薬）、に冒頭の代謝性循環器系用薬剤の**チトマック**（細胞呼吸賦活剤）、**ベノスタジン**（軟部腫脹治療剤）、**ベストフィリン**（新狭心症治療剤）、**ブロバリン**（催眠剤）、それに**ローヤルアビ**等々、**スパイスケンダ**（香辛料）、**粉末ジュース**の如く食品領域への進出等、次々に主柱製品の開発転換が何れもヒットし著しい成果を収めておられるのは、氏の俊敏な叡智と緻密な思索に俟つものである。

次いで経営の理念、将来の抱負についてお伺いすると

飽くまでも正統派、良い治療薬の開発に不断の努力を継続することが会社存立の基盤である。将来は業界のBig Tenの中へ参加すること。と即座に洩らされた。会社の成長過程において一度も自分の経営が中小企業だという意識を持ったことがないと言われる。仕事に対する自信と信念とに通ずるお答えと見た。

現在同社は在籍緑丘人十五名を数える就職大手先であるが、商大生に就いての御感想は

他の学校に見ない何か一本シンが徹っている点を買いたい、と。また部下を使うには先ず信頼し、年功序列的な配置を避けたいと答えられる。緑丘社員諸氏は大いに意を強く致したいところである。

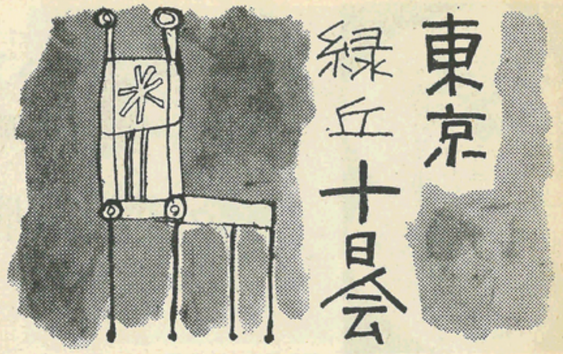
また同氏は多数の社外役職を受けておられるが、特に京都商工会議所副会頭、進歩的な京都経済人として知られる。ある時、旧社長室であった工場五階の高窓（通称司令塔と呼ばれていた）へ今の高山市長を招き南区工場地帯である周辺の煙突を指しながら、観光京都はまた産業京都でなければならないことを説かれたというエピソードは実に氏の面目躍如である。

最後にご身辺について

ご長男はすでに同社東京支店に勤務、次男は大阪電通、三男は大阪商船三井船舶進藤社長の許にそれぞれ入社されている。氏のご長兄（森下薫氏）が阪大名誉教授で、マラリヤ、寄生虫の研究で著名な理学博士、医学博士でおられることを知っている方は少ないと思う。なお、氏は読書をよくせられ、若き日の文学青年の面影が、「緑丘」にもお見かけするその執筆される麗しい文筆の跡にうかがわれる。

月末御多忙の折柄、更に御趣味、嗜好、海外視察、提携外国商社のことなど、お話を伺う機会を失したが社長さんのいつまでもお若いご健康と、益々輝かしい会社のご発展を念じつつ、清潔な本社社屋を後にした。

（訪問者）
山村太兵衛（昭一二）
㈱三優社々長
緑丘会京都支部幹事



第一三六回 六月例会

時　六月十日　午後五時半
所　日本工業倶楽部

緑丘会東京支部並に本部の定時総会が八月六日に開催された関係からか、六月例会の出席者は意外に少なかった。昭和六年卒の当番幹事の御骨折りで漫談家の長崎抜天さんを御迎えして「ユーモアと話術のこつ」について御話をして頂いたが仲々面白く興味深いものがあった。

来賓苫米地先生も益々御元気で一同歓談して八時半頃散会した。

出席者　二十一名
来　賓　苫米地先生
大十三　谷弥太郎、古関周蔵
大十四　椎野良之助
大十五　神田正英
昭　三　根田順治
昭　五　越前谷順治
昭　六　西堀房夫、山本博、山田進
　　永島豊次郎、古沢精吉、佐々木正制
昭　七　大島泰次郎、望月鷹雄
昭　八　八木勇平
昭十一　砂子沢正四、高木重信
昭十三　山本俊雄、高野憲一郎
昭十六　阿部英一

緑丘会東京支部役員名簿

（昭和 40. 6. 8 定時総会選出）

東京都中央区銀座東7の6（双葉ビル6階）　TEL (542) 0032

◎支部長　上村甚四郎（大 4）
◎副支部長　小貫　武（昭 2）　武岡　嘉一（昭 3）
◎理　事

五味　泰造	（大 6）	岡田　栄吉	（大 7）	間室　守親	（大 8）
布施　真	（大 9）	岡田良太郎	（大10）	小橋　庸三	（大11）
石川　一	（大12）	古関　周蔵	（大13）	高橋　武雄	（大14）
笠原　章雄	（大15）	手島恒二郎	（昭 2）	○小林　孝平	（昭 3）
宮袋　虎雄	（昭 4）	○北村大治郎	（昭 5）	川島　豊秋	（昭 6）
中田　乙一	（昭 7）	八木　勇平	（昭 8）	諏訪　寿	（昭 9）
野口正二郎	（昭10）	中尾　弘	（昭11）	牧野　栄二	（昭12）
山本　俊雄	（昭13）	大沼　誠治	（昭14）	杉浦　重敏	（昭15）
河合　潤三	（昭16前）	忠　善男	（昭16後）	成田　孝泰	（昭17）
野中　雅夫	（昭18）	赤津　俊樹	（昭19）	熊谷　成由	（昭20）
山田　賢司	（昭22）	杉山　好	（昭23）	木皿　邦夫	（昭24）
新田　力造	（昭25）	森田　徹郎	（昭26）	河原　順二	（昭28）
福島　滋人	（昭29）	室谷　達郎	（昭30）	浅野　豊彦	（昭31）
市川　健	（昭32）	青木　真一	（昭33）	渋木　宏康	（昭34）
杉山　修一	（昭35）	寺尾　忠明	（昭36）	加藤　一郎	（昭37）
大山　信爾	（昭38）	広田　徹	（昭39）	○印は会計理事	

◎名誉会員　苫米地英俊先生，大野純一先生，加茂儀一先生
◎監事，顧問，評議員，省略

第一三七回 八月例会

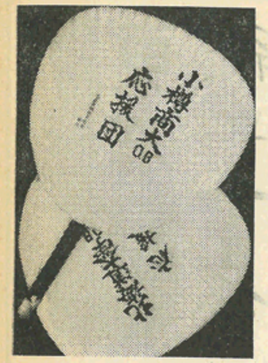
時　八月十日　午後五時半
所　新東京ビル丸の内会館

十日会会員は大体中年以上の方が多く健康に関しての話は大変興味を持たれるので自然出席率も、よくなるというので、昭和七年卒の当番幹事の方々は今回はドクトルチエ子さんをお迎えして中高年層の方々の健康、ことにスタミナのつけ方、使い方について女性の立場からお話をして頂くことになりました。

女史のお話では、女性は男性より寿命が長いが、これは女性のほうが肝臓と腎臓が大きく強いためであり、男性はこの点に注意して食生活をし、ストレス解消に努めるべきで特にビタミンB、C、Eを摂取するよう心懸けねばいけない。男性の寿命が短かい、スタミナがないということは女性にとっても大変なことだから切に男性諸君に関心を持ってもらいたいなど、さらに色々と面白いお話をうかがい微苦笑の内に約一時間栄養学を勉強さして頂きました。

この後、大谷敏治氏からマツキンノン先生御招待の件に付きお話があり、また最近欧米視察旅行から帰朝された吉岡義二氏からマツキンノン先生を御訪ねした時の模様などお話があり、八時過ぎ散会した。

出席者　三一名
来　賓　苫米地先生
大　三　宮崎省三
大　四　佐々木周一
大　九　吉岡義二
大一〇　大谷敏治
大一五　津久井七雄、大平善梧、神田正英
昭　二　杉中弘吾、小貫武
昭　三　野坂和太郎、根田順治、佐竹寿、三森光通
昭　四　宮袋虎雄
昭　七　大島泰次郎、藤原良静、八木勇平、谷本慶隆、花沢勉、佐々木正制、中田乙一
昭　八　名雲賢、宇尾五郎、能沢正義
昭　九　山岸次郎
昭十二　岡田春夫
昭十三　山本俊雄、金垣英雄
昭十六　和久井功、亀山英夫



北大エルム会・緑丘会大阪支部

余興対抗戦　両軍遂に引分け

S.40.7.10　於サツポロビール

〝宣誓。その昔、全道を二分して、若きメッチェンたちの血を沸かせた北大対小樽の対抗戦でありましたが卒業後の今日では、お互いに呑みあう親しい仲であります。

しかし、今日という今日は違います。

私たちは、この歴史にも特筆すべき試合において、学校では絶対に学習しなかった技術を以て、相手を笑い倒すまで、堂々とケツパルことを誓います〟

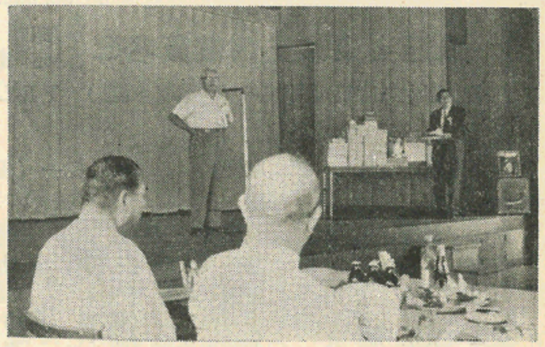
この珍貴な選手代表の宣誓が、安部氏（北大・昭19）によって読み上げられるや、会場サツポロビール大阪工場の広いホールを埋めた一〇〇余名の出席者から、爆笑と共に万雷の拍手がわき起って、会はいやが上にも盛り上ったのである。

壇上の、北大エルム会、小樽緑丘会大阪支部から選抜された堂々たる本日の選手は、それぞれ五名づつ。キャプテンの握手によって、本日の健闘を誓い合う。

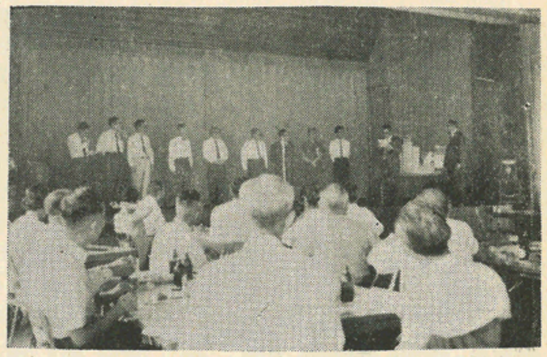
選手はいかなる若者か、と見てやれば、白髪あり、ビール腹ありで、何れも四十才以上の年配者ばかりだが、自信満々、折しも両軍によって編成された応援団は「緑丘会」「エルム会」と大書された特製うちわ（丸嘉機械寄贈）に、赤、白のタオル（松村タオル店寄贈）を鉢巻きに母校の応援歌の合唱を開始した……

さてこの対抗戦の由来に話しをもどそう。

事の起りは、緑丘会大阪支部の総会において、明年に予定された全国総会の事前行事として、張り切った同支部が企画したのが、この北大、小樽OBの余興対抗戦、という、世

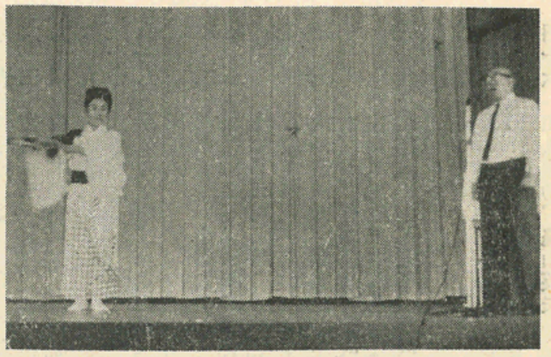


関西エルム会並河会長の挨拶

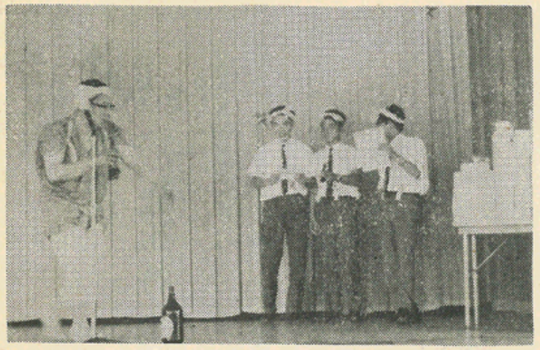


両軍選手の紹介

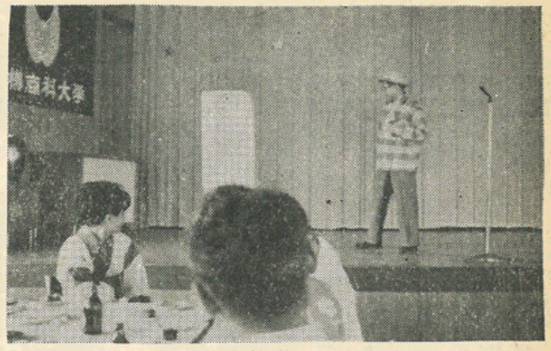
北大エルム会応援団



最高点獲得の宮地氏（緑丘）



緑丘・阿部敬作氏「ヨカチン」



緑丘・山内孝氏の「イカレモボ」

にも珍貴な行事だったのである。

恐らく、全国の同窓会にも、この種の催しは稀少であろう。

かくて両軍秘策を練ること、一ケ月余。七月十日（土）午後二時を期し、準備万端相整い、大会の幕は切って落されたのである。

北海道新聞大阪編集長も、この催しの取材に参加。また、当日の厳正な審査委員として、来賓、サツポロビール大阪工場長以下、女性を交えた五氏が特別席に着く。

直ちに本日の立役者、若山緑丘幹事長が同氏の敏腕と、スポンサー各社の好意によって、壇上に、堆高く積まれた。賞品の山を背にして、司会を開始する。北大側代表並河功氏（大五）挨拶の通り、〝本日の出席者は小樽七〇名、北大三五名で、先づ諸戦は小樽に優位を譲った〟というように、今回の主催者緑丘会が先づ一本取った。というところ。

続いて主催者緑丘会代表、石田支部長立って〝ビールはいくらでもある。先づ呑み比べで行こう〟と豪放且つユーモラスな名挨拶。かくて乾杯、懇談の中に、機熟し、両軍の選手の入場式が、万雷の拍手のうちに行われ、壇上で選手十名が、両軍の主将、中島（北大、大二）、宮地（緑丘大一一）両氏によって紹介される。主催者の名誉にかけてもと、必勝を期した緑丘軍からは、先づ母校加茂学長から、はるばる到着した電報「ホンジツノセイカイヲシユクシヒツシヨウヲイノル」ほか、緑丘会東京支部などの激励電報が披露された。

この瞬間より、余興対抗戦の司会は北大安部、緑丘山内（昭一六後）両氏に切りかえられ、いよいよ先攻北大軍中島氏の詩吟より、試合は開始された。忽ち同氏六十年の年期は朗々と場内を圧して響き渡る。両軍の惜しみない拍手は、大量得点獲得を決定づけたようである。

後攻の緑丘軍の先鋒は、ベテラン久保氏（大一一）が登場。年期では負けじ、と明治時代のポピユラー・ソング「枯れすすき」を、独特の振りつけで、鮮かに演舞する。いかにも枯淡の味の滲み出る演技であった。代って北大軍は、山本氏（大一五）の本格的フルートの独奏数曲で得点を重ねる。

ここで緑丘軍の応援団登場、団扇と鉢巻きで気勢を上げる折柄、またもや緑丘会名古屋支部から激励電報入る。後尾に「……ホクダイノミナサンニモヨロシク」とあったのは、如何にもこの懇親会の雰囲気にピツタリである。

かくて登場したのは、地獄会の雄将として名だたる阿部氏（昭一七）のヨカチン踊りである。入会の扮装に、種々の小道具を作っての大熱演は、一大圧巻であった。次席のマルカ若者グループの合唱とお囃子が、ピツタリ行けば、最高点間違いなしといったところ。

三回戦に入り、北大軍は浜崎氏（昭一九）登場、流行歌でヒツトを狙ったが、会場の熱気にあてられてか、途中で歌詩を忘れ、直ちに他の歌に切りかえ凡打を切りぬけた恰好。

緑丘軍の中堅は、河上氏（昭一六）いさぎよく、上下の衣裳を脱ぎ捨

会場風景（緑丘側応援団活躍中）

三代校長

苫米地英俊 先生特集

原稿募集締切日延長　十月二十日

苫米地英俊先生特集号の原稿募集をしましたところ、相次いでご執筆ご寄稿いただきまして有難うございます。

すばらしい特集にしたいものと計画をすすめております。この特集号に執筆下さいました方々の御芳名と記事は永久に**国立国会図書館、全国大学学校図書館、全国新聞社資料室**に残るものと信じます。

原稿締切日を一カ月延長しましたので進んで御執筆下さいますよう願います。

締切日　十月二十日
原稿枚数　四〇〇字詰原稿用紙四枚以内（一、六〇〇字）または「緑丘」原稿用紙一〇枚以内（一六字×一〇行）
原稿送付先　東京都中央区銀座東七丁目六番地　双葉ビル内
緑丘会事務局　神田正英宛　又は
大阪市東区道修町三丁目一二番地
塩野義製薬㈱内「緑丘編集部」
墓目英三宛
なお、原稿の初めに①卒業年次、氏名、原稿の末尾に②勤務先及び役職名を御書き添え下さいますようお願いします。

てて、（一糸は残った）〃南洋フラダンス〃、軽妙な腰振りは、よくリズムに乗って、有効打は間違いなし。

ここで中間発表あり。飲み放題の看板通りに、サービスよく出されるビールに満悦の出席者が、優劣何れそと耳を傾ける中を、審査員長より「北大軍リード」と発表されるや、北大軍より、ドット歓声が湧く。緑丘軍も負けじと、気勢を上げる。

緑丘応援団長今俊明君（昭三八）はノンプロ野球日本新薬球団の団長にふさわしく音吐朗々会場を圧し、これに唱和する緑丘人の拍手も、またキビキビとして一気に挽回の気勢を示した。いよいよ副長の登場、北大軍は金山氏（昭三九）、両軍を通じてただ一人の若手らしく、流行歌をスマートに歌う。審査員中、紅一点の女性の点いかに、とちよっと気になる。

緑丘軍副将は、本日の選手司会兼業の山内（昭一六後）、「イカレモボ」と題し、自唱自演の大熱演。〃わが輩の見染めた彼女〃と歌って立て札をクルリと引くり返せば、歌にそっくりの超グラマーが貼ってあり満場爆笑、得点多かった模様。

いよいよ主将の登場は、北大軍の司会兼業安部氏、サッポロジャイアントの巨大な瓶を下半身にブラ下げての〃ヨカチン歌舞伎踊り〃である。八〇キロの巨体から轟き渡る、豪声は場を圧し、何とも立派なものであった。熱気ぐんぐんと上昇。満場爆声、拍手の中に、緑丘軍は極楽会の雄宮地氏（大一一）登場。更にこれを助演するため、本日の特別来賓、大使館（サッポロビール直営）の美形一人、水もしたたる和装で、宮地氏の黒田節に合はせて舞い踊る。円熟した美声と、舞いとの美事な調和は万場を魅了し、実にフィナーレに相応しい名演出であった。

以上一〇番の採点が速かに集計されている間に、ニューミュンヘンの女性数名の踊り、さらに会場の昂奮とビールに陶酔した出席会員数名の飛び入り演技も、続出し、雰囲気は益々盛り上って行く。

程なく、審査委員長が満場の注目の中に壇上に歩をはこび、先づ両軍の得点と勝負を発表、「真に委員一人一人の厳正なる採点の結果、総得点は、奇しくも同点であります」との宣言に、万場ドッと拍手と歓声が上る。偶然とはいえ、考えて見るとなかなか味のある結果となったものだと全員満足の感が場内に満ちる。

次で個人賞が、発表され、団体賞と共にそれぞれ、多数の賞品が渡された。結果次の如し。

一等　宮地（緑丘）
二等　中島（北大）
三等　阿部（〃）
四等　山内（緑丘）
五等　河上（〃）
敢斗　山本（北大）

かくて、両軍の校歌合唱、万才三唱のなかに、なおも懇談尽きないままこの記念すべき第一回余興大会は、有意義に終了した。

出席者全員にスポンサーからのお土産が渡され散会。何とも快よい一日であった。

（山内記）

不動産の賃貸・売買・仲介・鑑定評価・管理・分譲

創業明治29年

東京建物株式会社

本　店　東京都中央区八重州3丁目7番地3　電話東京(271)1611(代)
大阪支店　大阪市東区北浜4丁目38番地　電話大阪(202)8731(代)
横浜支店　横浜市西区北幸1丁目7番2号　電話横浜(44)4231(代)

北海道新聞（こだま）にのった

関西エルム会と緑丘会京阪神支部　合同懇親会

▽…第三回関西エルム会と緑丘会京阪神支部の合同懇親会が十日午後、大阪府下のサッポロビール茨木工場で開かれ関西在住の北大、小樽商大出身者約百人はビールを干しながら大いに気勢をあげた。

▽…北大出身の長老、並河京大名誉教授、商大出の石田サッポロビール大阪支店長がそれぞれあいさつのあと『都ぞ弥生』『銀鱗躍る』を大合唱、舞台は呼びものの〃対抗余興戦〃へ―。

▽…選手五人ずつが出場、歌や踊りなど思い思いの趣向をこらした余興が飛び出し、花やかな声援も加わって楽しいひとときを過ごした。審査の結果、両軍仲よく引き分けた。＝大阪＝

関西エルム会との合同ビヤパーテーに出席して

白瀬　治三郎（大七）

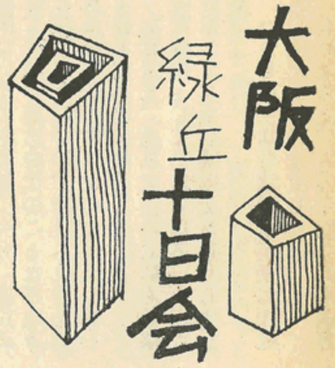
七月十日の関西エルム会との合同懇親ビヤパーテーの節は、幹事諸氏の御世話により、夏の半日ゆっくりくつろぎました。

五・七会（同期生の会）には、度々出席交歓していますが、緑丘全体の会には一度も出席したことなく、今度始めて出席して同窓諸氏の実に御立派な御活躍振りを拝見して、全く感激しました。

なお、小生も昔から芸事が大好きで、義太夫、長唄、謡曲等一寸づつかちりましたが、先日の会で皆さんのかくし芸の達者なのに一驚しました。決してエルム会には負けませんね。

実は小生、昨年の秋、四十六年間の貿易関係の仕事から退き、目下隠居の生活をしていますが、簡裁の世話のほかに仏教講座を聴いたり、庭仕事に打込んだり、週の一度は老夫婦で三・四キロのハイキングをしたり、結構多忙な月日を送っています。

箕面方面に御来遊の同窓今後は、是非拙宅に御立寄り下さるよう御待ちしております。



八月度十日会は、サッポロビール大阪支店で九日十二時から行われた。

若山幹事長から第三回関西エルム会との合同懇親ビヤパーテイの状況を説明し、当時の模様を再現した。すぐ母校を訪問した幹事長は北海道新聞〃こだま〃に掲載された記事を小樽で見て、全道にこの盛会がP・Rされたことに気をよくしたという。

母校弓道部が全国大会に来阪惜しくも敗れて帰ったが礼状の来ていることを披露する。

明年度緑丘全国総会が大阪支部担当で関西三支部の協力で盛会にしようと協力を御願いする。

次いで会食に入り、大木弘基氏（大一三）にマツキンノン先生を訪問した折のお話をお願いした。

墓目副支部長はマツキンノン先生を日本に招待しようという運動の経過を説明し、大阪支部会員の基金援助方をお願いした。

何時もお元気で御出席下さる椎名先生に今日も椎名哲学を若山幹事長よりお願いする。

椎名先生は〃緑丘〃第四十三号に私のことがのっているので誰れが書かれたのか、H生（広島）とあるのを富山の神沢重治さんから教えていただいて判ったが、私の話した保険講習会の記事であって、その内容をお話し下さった。人が尊敬されるのは金でもなく、力でもなく、それは智識であると話したのだが、実はその後に人柄であると付け加えるつもりであったが、ここに参加の世情に通じたかたならいいのですが、実は若い社員許りが相手であったので人柄にはまでは話さなかったのです。と。富士山麓でゴルフをやって来た近況と渋沢栄一の墨書には必らず**関傍印**に「人生尊晩晴」という印が挿されている。その心境の尊さをお話して下さった。今日の十日会はまことに意義深い十日会であった。

マツキンノン先生招待募金

大阪支部でマ先生の申込について応募の結果をまとめましたところ左のような結果となりました。

申込数	六十七名
金額	十七万二千五百円
本部宛送金者	三十六名
東京支部へ	十二名
託送その他	二名
未定	十七名

札幌　昭和十三年会同期会

大阪から母校へ新社員採用のために来道の若山君の歓迎を兼ねて札幌同期会を七月十三日午後六時から鎌谷君（ゴードー溶剤取締役支店長）兼営のゴードーの直営二階で開きました。参会者は次の十名で

若山永太郎　丸嘉機械専務
馬林　進　北海道澱粉糖工業協同組合事務局長
長岡　鉄雄　北部方面総監部札幌駐とん地業務隊長（一等陸佐）
今井　健一　東邦交通社長
大滝甚之助　保全病院
佐藤　勇　まるきう洋品店専務
吉田　竜三　国鉄苗穂工場用品庫長
額田　重孝　幌西郵便局長
進藤　富夫　藤富商店社長
戸谷太通三　貸家業

筆者を除いては皆多士済々、仕事に脂の乗り切った働き盛りの中年？の紳士ばかり。

まず幹事の馬林君の挨拶があって開宴、少し遅れる若山君を待つ間、一杯やりながら昔の学生時代に返って談論風発和気あいあい。

エルムハイヤーの他手広く事業をしている今井君、赤ダイヤで有卦に入っている進藤君の両社長族はゴルフの話から世相放談、大滝甚君が加わって三人で車と交通問題におよべば、そこに馬さんが入って最近交通事故で相手にぶつけられ、相手が重傷で十万円出した話。進藤君が、先年亡くなった親友の北島章君の娘さんが適齢になったので世話したいが良いお婿さんはないかなどと話している処へ、今夕の主賓若山君の御入来となる。

彼は大阪みやげの緑丘誌、大阪支部会員名簿、表には「緑丘会」裏には「小樽商大OB応援団」と大書したウチワを一同に贈って開口一番〝緑丘誌の購読〟を要請、次にこのウチワで先日北大OB会との対抗大会において応援し大変盛会であったことを披露、最後に一段と声を高めて、来年六月十日関西で緑丘会全国大会を開くことに決定したから夫婦同伴で是非来阪されたいとPR。第一日目の会場は太閤園で第二日目は同期会毎に分れて琵琶湖の紅葉園で開き大歓迎をする予定であるから、いまから精々貯金しておかれたしと結ぶ。

若山君はこゝ数年毎年来道されているので、ほとんどが顔なじみになっているが、卒業以来初めて、或いは二十何年ぶりという人も二、三あり、同期の変り種自衛隊一等陸佐に栄進の長岡君もその一人。昔の兵隊の位に直すと陸軍大佐で連隊長殿というところ、若山君とは支那事変の見習士官養成時代第四期生の同期で予備士官学校から戦時中のことなど話が弾む。

終戦後の話となって大滝甚君が急に米軍との通訳にさせられて往生しそのお蔭で英会話が上達したこと等におよぶ。

若山君曰く「北海道の空気はうまい、千歳空港に降りたとたんに気分が爽快になる」

佐藤君曰く「若山君は相変らずの東北弁だが、大阪では却って、その方が社会党の佐々木委員長のように愛嬌があって商売によいのではないか」

あちこちでも話の花が咲き、吉田君の数年の療養生活の体験、心と肉体についての宗教談、今井、若山両君、昔の伊藤忠時代のことなど色々と話は尽きないが、時計も九時を過ぎた頃、若山君は来年の再会を約して皆と握手をし散会した。

なお席上、先日死去の立原君葬儀の花輪代として出席者は各三百円を分担して、その冥福をお祈りしました。

いつもの世話役鎌谷君が逆に大阪出張中とかで残念でした。

これより先、六月十四日北海道神宮祭で賑う宵宮の夕べ、新潟から高杉君が来道、多賀君（三和建材社長）が世話役となり、額田、鎌谷、戸谷の総計五人でさゝやかながら歓迎同期会を前記の同所で持ったことを付言しておきます。（戸谷記）

戸谷太通三兄の近況

若山永太郎（S一三）

二十数年間の斗病生活を続け、よくぞ元気になられたものだ。

六年前に私が卒業後二十一年振りに母校を訪問した時に、札幌の同期の連中より戸谷兄が卒業して就職したが、間もなく胸部疾患で療養生活に入り、爾来二十年間斗病生活を送って居ることを聞いた。その時は、見舞すると興奮してはいけないので面会謝絶になって居ると承ったので毎年北海道出張の時、ホテルから御見舞の葉書を差上げていた。

昨年後半頃より、戸谷兄は大変元気になって、ボツボツ歩く練習をしているとの御便りを頂戴した。

今年は去る七月十三日札幌に出張した。その晩、前記戸谷兄の原稿に書かれているように、同期の連中が集ってくれ同期生会が催された。

ところが、その席に戸谷兄が出席されているではないか……。全くびっくりした。本当によくぞ二十数年の斗病生活を切抜けて元気になられたものだ。

戸谷兄と手を取合って喜びあった。われわれも卒業後、就職、まもなく出征、数年間兵火をくぐり抜け

昭和十三年卒の皆さんへ

故山脇正晴君のこと

戸谷太通三記

故山脇正晴君のことについて昭和十三年卒と当時正気寮々生だった皆さんに御知らせ致します。

緑丘会名簿ならびに同期会名簿によれば同君は唯死亡者欄にあるのみにて死亡年月日その他は不詳でしたが、この度漸く御遺族の御父君（北九州市在住）と連絡がとれ、同君は昭年20年2月17日ビルマのミイトキーナにて戦死を遂げられたことが判明致しました。

これに対し遅れ馳せながら弔意と御香料をお送り申上げたところ、折返し丁寧な御礼状を頂きました。

昭和10年秋　小樽高商正気寮寮祭にて　後列中央が山脇君

さて緑丘第41号で大野陽之助君が「昭和十三年卒に告ぐ」と題して戦歿学生特集号に同期からは一人の寄稿者も無かったことに対して遺憾の意を表されておりますが、在寮当時の山脇君と同室であった私は、彼の死亡についてもっと早くから調べておくべきであったのに、うかつにも同君の名前が名簿の死亡者欄に何とも註記のないのを、そのまゝ鵜呑みにして荏苒今日に至ったことは全く怠慢であったと深く恥入る次第です。それかあらぬか、この緑丘第41号が私の手元に郵送されたのは二月十七日のことでしたが、この日は後で同君の満二十年目の命日であったことを知り、この遇然の一致は、同君の御霊が大野君と囊目さんの筆をかりて「しっかり頼むぞ」と言はしめたものと信じてやみません。将来学園に戦歿者の慰霊の場所が出来るらしいとのことで終戦後復員、それ以来再び就職等色々苦労をしてきた積りである。

しかし、戸谷兄のように戦時中、戦後を通じ、一室にとじこもってじっと天井を眺めながら斗病生活も大変であったことと思う。

われわれの苦労が動的と表現されるとすれば、戸谷兄の苦労は静的といい得ると思う。

御家族の絶大なる御協力、御支援も大したものと思うが、戸谷兄の忍耐力にはホトホト頭が下がる思いである。

すので、その時には晴れて彼の名も祀られることゝ存じます。

ここに旧友故山脇正晴君は戦死であったことをお知らせして、皆様と共に、その冥福をお祈りしたいと存じます。

なお特集号に同期生から一人の執筆者の無かったことについて、六月中旬新潟の高杉君歓迎会の席上、鎌谷君にこのことを話したところ「三年後の卒業三十周年記念全国大会を小樽で開催する時、是非慰霊祭を盛大にやろう」とのことでしたので一言申添えておきます。（鎌谷君は以前にも一度昭和二十五年頃主催者となって小樽で同級生の慰霊祭を行っております）

哀悼故山脇君

春灯下ミイトキーナは地図になく
盆くるやビルマの果ての君が骨
骨灼けてあらん仏桑華咲きてあらん
君が骨に小樽の雪を捧げたし

合掌

技術革新に貢献する

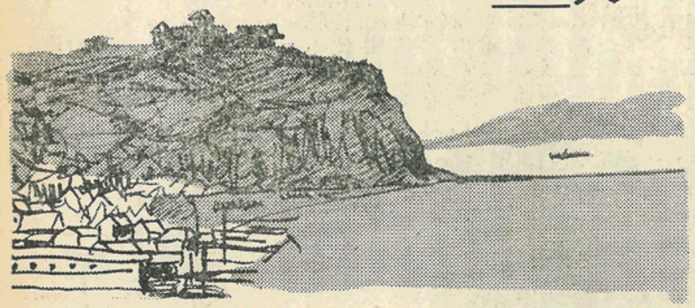
丸嘉機械株式会社

大阪（本社）・東京・名古屋・岡山・広島・姫路・仙台

大一三会

41周年を迎えて 小樽でクラス会

S.40.8.15～16



大正十三会四十一周年小樽大会

昨年四月卒業四十周年記念クラス会を箱根で開催し大いに久濶を叙し旧交を温めたら「早速来年もやれ」と満場一致の希望で、それが小樽地元の宮尾寿原、茶谷、湯口、久木、諸氏の一方ならぬ御尽力で、いよいよ八月十五、十六の両日懐しの地小樽で四十一周年記念クラス会開催と相成った次第です。

○八月十五日正午小樽北海ホテル集合、一同母校訪問、前学長大野先生、現学長加茂先生の御案内で懐しい各教室やら、新装の各施設を参観、記念撮影。終って展望台、小樽市内を通って銀鱗荘到着、宴会、一泊

○八月十六日一部有志は寿原幹事の斡旋で銭函の小樽ゴルフクラブでプレー、他の多数は正午迄に歓を尽し、また来年を期して散会。

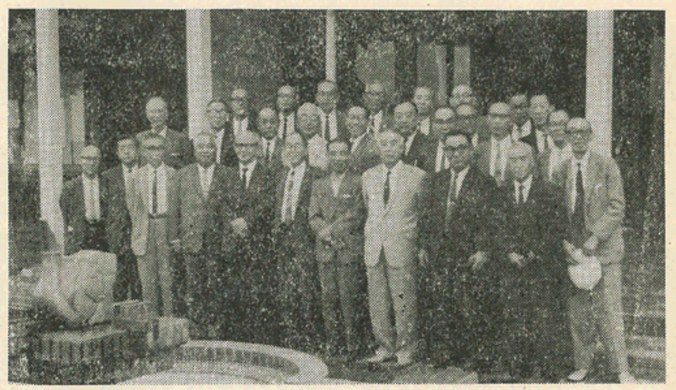
○出席者

来賓　大野純一先生、加茂儀一先生

級友

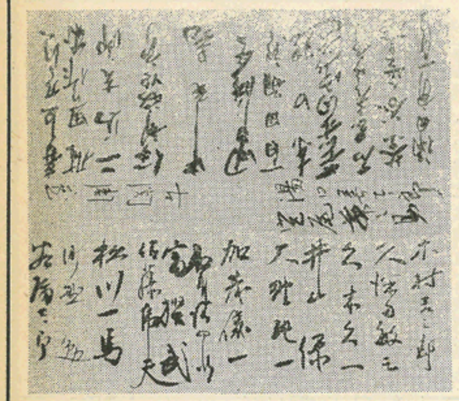
荒木田定道、福田勇一郎、二馬吉郎、東口環、姫野亨、久木久一、伊部政次郎、井上保、石川清四郎、石岡彦次郎、木村吉三郎、湯口善太郎、高浜年尾、田村丈太郎、百田嗣郎、野界作成、古関周蔵、久保田敏三、町野勉、松川一馬、宮尾藤之輔、門間冬見、中尾晃、桜井長徳、佐藤虎夫、田中修吾、谷弥太郎、飯野雄司（級友故英一君実弟）、寿原九郎、茶谷豊彦

東京幹事　古関生



（上段）　（中段）　（下段）

茶谷　東口　石岡　久木　桜井　松川　野界　福田
姫野　富田　中井　湯口　谷　町　古関　上　宮尾　寿原
荒木　木田　中部　伊田　石川　大野先生　加茂先生　久保田　佐藤　百田　二馬
木村



（大一三会　寄せ書）

阪神緑士会便り

八月十一日午後六時大阪千日前南大使館に集まり、趣向をかえてビールパーテーを催す。出席者杉山、四谷、竹村、松岡、久保、松本、野島、宮地の八名、何時もながらの常連である。この他に当地在住の会員が六名いるが病気その他己むを得ない事情で御顔を見ることが出来なかったが六十路の坂を越すと、これが普通かも知れぬ。

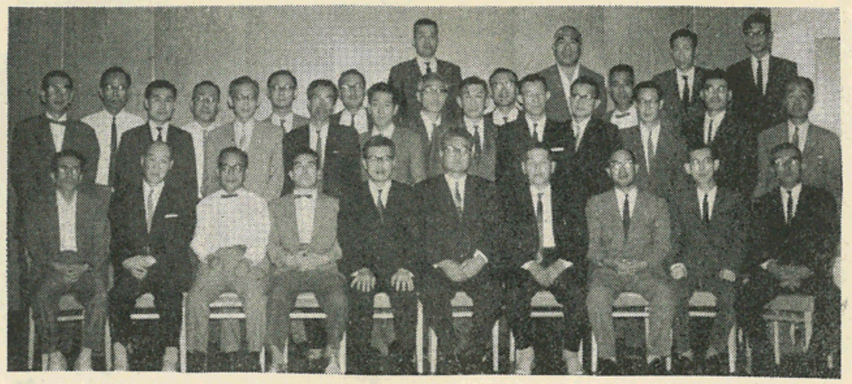
集まった面々は先づ異口同音に互いの健康を喜び合い南大使館の貴賓室を独占しジョッキ片手に話題は豊富ながら語るにおちるは健康管理と生死の問題であり、それがまた無上に楽しいのである。席上左記の件も談合、出来る限り協力し合うことを約し、午後九時散会。

一、来る十月五―六日北陸集会

一、来年六月十―十二日大阪開催の緑丘総会を機に緑士会四十五周年記念集会を当地で併せ行うよう全会員に呼び掛けその実現に努むること。（宮地邦介記）

東京昭一二クラス会

七月二十六日　三十二名参加



七月二十六日午後六時より石川先輩の常務をしておられる東京ステーションホテルで在京昭和十二年クラス会を開催致しました。遠くは富山県高岡市より在校時代応援団長をしておられた浜井清一氏も来会し集る者三十二名の近来稀に見る盛会でした。クラス会は卒業以来初めての出席者も多かったこととて、各人卒業以来の簡単な略歴を披露しました。特に家族の構成、子弟の年令等に加えて就職の依頼やら結婚依頼やらで和気藹々の中にいつしか八時を廻り小生持参の写真機で記念撮影後散会しました。

翌日は石川孝一氏（川重）の斡旋で、千葉カントリークラブの梅郷コースで千鳥会（昭和十二年度ゴルフ会）の第四回を開催しました。生憎ウィークディのことで参加者は六名でした。一位千野秀夫氏、ハンデ十八（旧姓堀内）二位牧田恒夫氏、三位長谷川順治氏（旧姓今津）でした。次回はゴルフを中心としたクラス会を十月一日青梅ゴルフクラブで開催の予定です。

昭和十二年在京クラス幹事
長谷川順治
大村　良雄

【出席者】

千野　秀夫（旧姓堀内）
古沢　彰一　福田　政治
長谷川順治（旧姓今津）
広瀬　順造（旧姓瀬畑）
石川　孝一　牧野　栄二
牧田　恒雄　宮口　章
松本浩三郎　松岡卯之典
宮嶋　巌　中沢　正五
櫛岡　治　野中　正夫
小川　正弥　小塩　寿
大村　良雄　小沢　宣行
岡島　久則　斎藤　彪吾
佐々木成彰　菅原　文夫
須永　誠一　桜庭　幸雄
関　泰明　高木　光孝
竹島　旬　梅原　音二
山本　博康　横山　為治
浜井　清一
以上三十二名

ゴルフ会参加者

千野　秀夫　牧田　恒雄
大村　良雄　浜井　清一
石川　孝一　長谷川順治

昭一二　ニュース

☆今春五月初旬には九州旅行からの帰途、大阪に立寄り同級の豊島、田中正三、浅野輝彦（福井県）の三君と御逢いして二晩泊って来ました。また八月四日には東京で岡田春夫君の世話で長谷川順治、牧野栄二、石川孝一、宮嶋、牧田恒雄の七君と会食を共に致しました。何れも五十年配にならうとして感慨つきせぬものがありました。（本間英作）

☆いま蟇目編集長宅で校正のお手伝をしています。丁度蟇目先輩が皆川君のお墓へお詣りして帰ってきたところでした。（秋分の日）

蟇目さんには特に我々昭一二の連中のことに気をつかっていただいています。熊本の立石市郎君の息子さんの就職の事まで、ご心配下さいましたが、幸い九月中旬熊本へ私が行って立石君に会いましたら、先輩のアンコール㈱に就職出来たとの事で早速蟇目先輩にも報告しておきました。

「緑丘」の申込者は昭一二はとても少いとのことを聞いて恥しくなりました。昭一三の札幌の戸谷君などは全道の同期に呼びかけ一生けんめいに勧誘し、目下続々申込が来ているそうですし、昭八の小樽の鈴木さんも献身的に全国の同期に呼びかけ、とうとう九〇%を越えたといいます

我々もなんとか集めなくてはならない気持になります。私が勝手に上欄の出席名に○をつけましたから○印の方は一人で五人づつ電話をかけて申込を集めて下さい。北海道は本間君にたのみます。（内藤好生）

昭和十七年卒全国大会

五十七名のクラスメート　十二人の恩師を迎えて

三年目の歓び

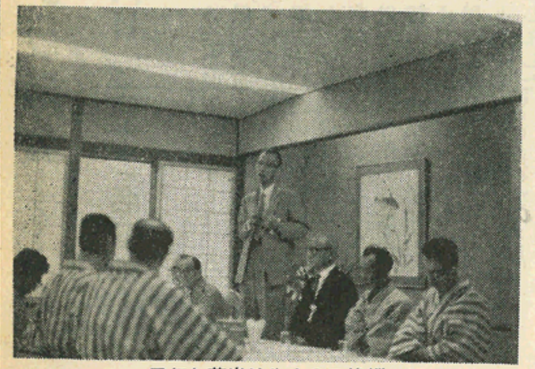
昭和十七年卒（第三十回）の私達は卒業二十周年の昭和三十七年秋に伊東で第一回全国大会を行ない、四十二名のクラスメートが再会を歓び合い、次は三年後に懐しの小樽で第二回の大会を行なうことを約して別れたのであった。

そして、去る八月二十一日、全国より集まった同窓諸君は地獄坂を一歩一歩かみしめるように踏みながら会場の学園に上ってきた。桜やなゝかまどの木は坂を覆い、両側は殆んど家で埋まってしまったが、慈愛の緑の山のふところにある学園には変りはない。そして、この学園を下り戦火の中に別れ別れになってから二十三年、再びなつかしの学び舎の前に立ち得た感激はまた何にもたとえ得べくもなかった。

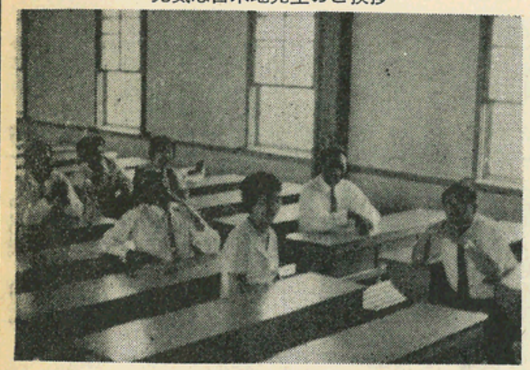
午前十一時、快晴の学園に集った五十七名はまず校内参観をした。電子計算機、ランゲーヂ・ラボラトリーなどの新しい部門と、大教室や廊下などの昔と変らない部分に時の流れを感じさせるものがあった。

正午から、学生会館で旧師とともに会食に入った。旧師が御忙しい中を十二人も御出席していただいたのは全く有難く、またこの大会が大盛会に終った一つの大きな要因もこのような先生方の御蔭であると思う。

この後、総会の議事を終え、本館の前で記念撮影、正法寺での戦死者、物故者の追悼法要を終え、張碓町に新築された長谷川ガーデンで懇談会を行ない一泊、翌二十二日朝食後、次の第三回は三年後に関東地区で行なうことを約して、二日間に亘る会を盛会裡に終り、全国に別れて行った。



元気な苫米地先生のご挨拶



女房と合併教室にならぶ

変る母校と変らない小樽

新築の学生会館の屋上から眺めると智明寮、その下には体育館が緑の山を背景にクッキリとうかび上っている。これらはいずれも鉄筋コンクリートで、かつてそこにあった木造の寮と比べると隔世の感がある。

母校の本館の一部でも図書館の近くがとり払われ、旧シャンツェ付近には研究室の建設が明年から始められることになっている。明治の面影を濃く残したこの木造の母校はこの数年の間には全部コンクリート建になるという。学生諸君には嬉しいことだろうが、緑丘というと先ず頭にうかぶ、あの緑の中央玄関や一連の建物がなくなって行くことは一沫の淋しさがつきまとう。

それに比べ、小樽の街は一向に変っていない「変ったのは港に船が居ないことだけだ」と一人の学友はいったが、花園大通りなどでも空家が出るとなかなかふさがらないし、勧業銀行も店を閉じたという。

このような小樽の街の凋落ぶりは涙の出る思いがしたが、それにも拘らず小樽の商人は金を握っているといわれるのは、永い伝統の然らしむるところだろうか。

旧師の有難さ

今度の総会、追悼法要、懇談会には、苫米地、大野、加茂、室谷、木曽、松尾、玉井、久木、岡本、原岡、石川の諸先生に御出席していただき、恩情溢るる御話をうかがい、一同は旧師の有難さに感泣した。

苫米地先生は御病気後にもかかわらず、極めて元気に若々しく緑丘赴任のいきさつ、マッキンノン先生招待などにつき御話になった。

これに対し早速約二十名が募金の申込をした。

大野先生よりは、戦争中に青春を送った君達は亡くなった同僚の分まで働いて欲しい、現在の不況は経営者としての素質を養う天与の好期であるから健康に留意して頑張ってほしいと二十数年前の教室と同じ若々しい御話があり、同席された先生方から「大野先生がこんなに若々しい御声で話されたのは近頃にないことだ」とのことであった。

加茂学長よりは大東亜戦争で亡くなった緑丘生の魂を顕彰する碑を作りたいと思っていること、学園の現状などについて御話を伺い、松尾先生よりは「君達のイメージは銃剣で武装したものしかない。」といわれ、戦歿者碑について学園内のどこに置くのがよいか考えてほしいとのお話があった。

その他、多くの先生方より思出話や激励の言葉をいただいたが、紙数の関係で全部をお伝えできないのは残念である。しかし室谷先生の万年青年ぶりについては是非報告しなければならない。

室谷先生は戦時中に北海道商工会議所理事を兼務され、この激務の疲れから戦後病気になられたが、特別のファイトで克服されたとのことでかつての大教室を轟かせた大きな美声で、停年退職後、短大教授、さらに現在の札幌短大学長に就任されたこと、卒業生の一人一人についてよく知っていることなどを話され、最後にはストームの音頭取りや、謡までやられて「室賢健在なり」を身をもって示されたのには級友一同息を呑んだ。

人生最大の楽しみの一つは良師を得ることであるというが、このように多くの旧師が引続き学園や札幌地区に留まられ、私達と二日間に亘り寝食を共にしていただけたというのは全く有難いことであった。

松尾先生や久木先生は「こうして永い間同じ学校に居ても、大野先生などと枕を並べ深更まで話し合い、更に目が覚めてからまた御話しできたことは初めてのことで、これも諸君のお蔭です」と喜んでいただいたのには却って恐縮した。

光る友情の涙

総会では議題の一つとして、会の組織を強化し、死亡者や長期療養者などあった時には直ちに弔慰や御見舞ができる体制にもって行くこととした。

ついで正法寺の追悼法要には、太平洋戦争で散った級友など三十名の物故者に対し、坂口栄之助君が切々たる追悼の辞をのべた。本日のこの会に参加すべくして参加できなかった級友達、そして私達の代りに散って行った人々、僧正がその一人一人の名前を読み上げた。その顔が一人一人と思い出され、参会者の目には涙が光っていた。

卒業のアルバムを失ってしまった人が多いため、級友の一人がこれを再生配布する手配も進められた。

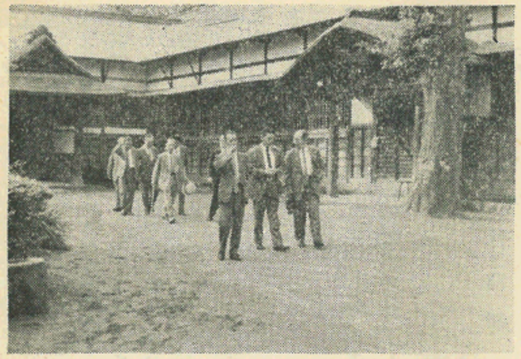
友情は会の度に、年とともに深まって行く。

成功だった総会

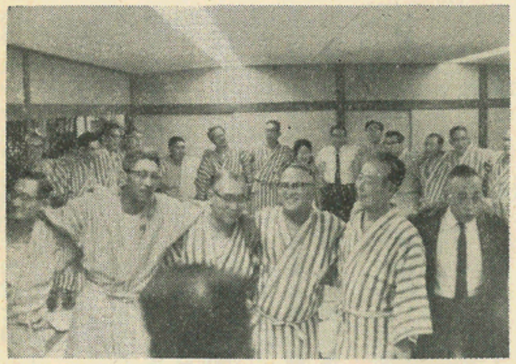
小樽のクラス会で五十七名も参加したことはおそらくは同窓会の中でも最初のことではあるまいか。これも小樽の幹事のお骨折りと愛校心の然らしむるところであろうが、それと共に、戦後よりクラス会を続け、三年前より全国大会を制度化したことがあげられよう。

「去る者日に疎し」は真実である。私達は更に団結を強め、同窓の中にあってもほぼ中ばに位置し、社会的にも中堅の座にある責任を立派に果して行きたいと思う。（大庭記）

【写真】阿部敬作君提供



正法寺を出る（上）会場で（下）



広告マッチ と 美術印刷・紙工品

株式会社 三優社

京都市下京区寺町通松原下ル
TEL.（35）0271・4950・7713
取締役社長　山村太兵衛　（昭12）

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

札樽緑丘ゴルフ

恒例の札樽緑丘ゴルフトーナメントは七月十五日札幌国際島松コースで催されたが回を重ねる毎に参加者多く将来は本会を通じて益々緑丘同人の親睦を深めることが予想される。今回成績次の通り。

◇　◇　◇

八月十七日恒例の緑丘会札樽ゴルフトーナメントが札幌国際島松コースにおいて行われた。大一三会の総会が行はれるのでゴルフ歓迎合同トーナメントを兼ねた。

この日札樽地方が三十度を起す快晴にもかゝわらず、この地方は霧雨が多く奇異な現象が見られたが、参加者も二十名を超える盛況にて回を重ねる毎に盛況を加え、今後益々発展が期待されている。なおゴルフアー名簿記載洩れもあろうかと思い御気付きの方は是非左記幹事宛御知せ願い度しとの事。

札幌市大通西二十五　〒(62)四二七六
瀬尾幸三郎（税理士）

7月15日戦績

	OUT	IN	GROS	H	NET
1　小久米（大日本印刷）	51	46	97	28	69
2　山　本（樽倉）	48	48	96	24	72
3　八　木	50	53	103	31	72
4　藤　居（日藤）	46	48	94	21	73
5　鎌　田（湯浅）	45	52	97	24	73
B.G　杉　江（雄）	43	47	90	14	76

8月17日戦績

	グロス	ハンデ	ネット
優勝　松　原（会計）	96	30	66
1　池　田（製菓）	97	28	69
2　遊　佐（ローヤルH）	94	24	70(B.G)
3　池田(友)（産炭振興）	99	28	71
4　錦　戸（塗料）	104	29	75
5　波　方（北洋相互）	96	19	77
BB　池田(昇)（会計）	107	21	86

我満博仁君を悼む

伊東克郎（昭二五）

我満博仁君は、昭和四十年八月三十日夜半、枚方市民病院において、日本脳炎のため急逝した。享年三十七才、男盛りであった。

昭和二十五年緑丘卒業後、札幌、豊橋、東京と、彼は三たび処を変え四たび職を変えた。五たび目、昭和三十六年現在の日電家庭電器販売株式会社に知遇を得、天野社長を中心とする緑丘の先輩後輩に囲まれて、ようやく彼本来の面目を取り戻して丸四年、同社京都営業所長の重責のまゝ、僅か三日間の入院の後、遂に不帰の客となったのである。

戦後の緑丘文行寮時代、ひもじさの中で彼は野球部、私はラグビー部だった。持ち寄りの米を炊いて人生を論じながら、常にリーダーでありバイタリテイに満ち溢れていた彼が僅か一匹の蚊のために、三十七才で生涯を閉じようとは、正に人生無常以外の何物でもあるまい。

故郷を遠く離れた彼には、愛妻と一男一女以外身内とてない。しかし告別式には、会社関係者、緑丘関係者と一緒に、あの頃の仲間が六人集まった。鍵谷が東京から、真田、金沢と私が名古屋から、そして地元の茶木と仲谷。

告別式の終った夜、京都で盃を交しながら誰かが言った。「良い奴ほど先に死んで、残った奴に人生を教えてくれるんだ」と。もう一度こみ上げて来るものを押えながら、皆がうなづいていた。彼はそんな男だったのである。享年三十七才、男盛りだった。

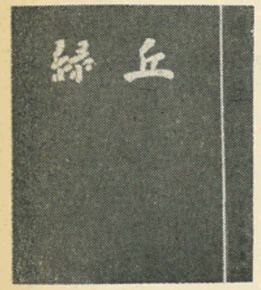
心から冥福を祈る。

緑丘　綴じ込み表紙

「緑丘」綴じ込み表紙ができています。

希望者は二〇〇円お送り下さい。

大阪市東区道修町三丁目　塩野義製薬㈱　薹目英三宛



若みどり会を残して行った
石井登さんの御冥福を祈る

藤井幸男（昭九）

八月二十三日朝、薹目副支部長から、石井登先輩の急逝されたことを聞いて、自分の耳を疑う程に驚ろきました。お会いする度にいつもニコニコして居られる温容は、自ら親愛の情を呼び起こさせる微笑みをたゝへて、先輩後輩といはず、一脈の血の通う温さを感じていました。福知山鉄道管理局長を最後に、国鉄を引き、日本食堂関西支部長に就任されましたが、石井さんの世話になったものは数知れず、後輩も故人の徳を慕って親子のようなつながりを持っていました。

私の友人で和歌山駅長になっている某が（石井さんが天王寺鉄道局在任中の部下でしたが）この三月彼の長男が大学を卒業して就職する際、石井さんは若山さんの会社に就職を世話されました。彼は親子二代、石井さんの世話になったわけです。葬儀の時、彼は、これから親子二人で石井さんに御恩返ししようと話し合った矢先、石井さんに亡くなられて残念だと、口惜しがり無念の涙を流していました。石井さんが神戸駅勤務の後、小樽高商へ、卒業後再び鉄道に入り、高文をパスされた。立志伝中の努力家であるだけに、内に秘めた情熱と強い意志に、一面郷土を愛し、母校を愛された、緑丘精神の権化ともいうべきでしょう。石井さんは鳥取県倉吉市に生れ、後神戸に移られたのですが、鉄道時代は再々墓参に帰省して、小学校時代の友人と語り合うのを楽しみにして居られました。

本年四月、山家利典君（昭一三）の発案で、鳥取で老後を淋しく過ごして居られる若松先生を、長寿の祝いと謝恩、慰労の意味で、東郷温泉にお招きする計画を、石井さんに相談したが、速座に大賛成で、業務多忙のなかを割いて、大阪から、わざわざ出席されました。若松先生とは何十年振りだといって、一寮の昔話しに歓を尽くして居られましたが、その時の石井さんの、満足そうな顔がいまなお、はっきりと目に浮びます。

一夜あけて、朝会食が第二次会と相成って宴たけなわとなるや、石井さんがスックと立って提案されました。(1)この会合を年一回開催すること。(2)山陰、山陽に居る若松先生のゼミに呼びかけること。(3)一寮生は全国的に案内すること。(4)この会の名前を、若松先生の若と、緑丘の緑をとって若みどり会とすること。全員異議のあらうはずはありません。直ちに寄せ書きと、記念写真、薹目編集長への記事が附随的に取運ばれました。いまにして思へば石井さんが立派な置土産をして下さった。としみじみ感慨にふける次第です。始終石井さんと若林先生は固い握手をされていましたが、二人共目は涙で一杯で、とても劇的のような気が致しました。八月二十三日、阿倍野斎場で、日本食堂株式会社の社葬が行はれましたが、参会者ひきもきらず、さしも広い斎場の石井さんの遺徳を偲ぶ人々で埋まりましてプラットフォームから馳けつけた、駅弁さんの仕事着のまゝの焼香の姿に、一同涙を新たにして、石井さんの御冥福をお祈りした次第です。

緑丘会大阪支部
石井登君（昭六）の死を悼む

石田平八（昭二）

八月十九日朝日本食堂から電話であなたの同窓の石井支部長が危篤ですとのことである。あまり突然なので吃驚して、よく聞き訊すと、一昨日頭が痛くなったといい出してから急に悪くなり、済生会病院に入院しているとの話に早速病院に駆けつけてみたが已に意識はなく、苦しそうに酸素吸入するのみであった。脳炎の疑があるというのでこの日の午後桃山病院に移ったのであるが、その夕刻遂に帰らぬ客になってしまった。

石井君は昭和六年母校卒業後国鉄に奉職され、昭和三十四年福知山鉄道管理局長を最後に日本食堂株式会社に取締役関西支部長として入社されたのであるが、非常に情誼に厚く始終部下や友人の子弟の就職や縁組のことで奔走されていたのが印象的である。緑丘会のあらゆる会合にもつとめて出席され、十日会の常連でもあったのに誠に惜しい人を失ったものと残念でたまらない。

葬儀は八月二十三日阿倍野祭場で日本食堂株式会社葬として行われ、その盛儀は故人の徳を偲ばせるものであった。

御遺族は石井とみえ様（豊中市桜塚東通七丁目十八）と康子（大阪女子大卒家事見習中）武志（関西大学在学中）博昭（高校二年）の二男一女です。

角谷栄作君の死を悼む

（八月十日午前七時逝去）

墓目英三（昭一一）

築地ガンセンターに入院中のところ八月十日逝去、十二日自宅で告別式、同級生小島典春、紫竹亜津視、墓目英三の三氏参列する

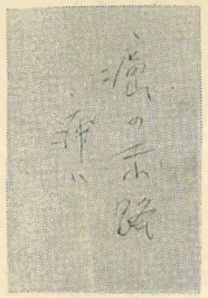
〝緑丘〟三十七号（昭和三十九年五月）に角谷君はまんぴつを書いて、上野君にバトンを渡した。

そのまんぴつによれば「三十九年の一月で満五十才になった。平均寿命の、あと二十年を追加寿命として一年づゝ分割購入する。貴重な代価として……」と結び「三十年間愛した煙草（朝日）もやめ、特別のことがない限りビール一本を限度とする」とせい一杯の執筆であったのだろう。この時奥様からガンのため日大板橋病院で手術して退院したことを知らせていただいた。しかし、本人には知らせていないとのことであった。

そして一月に再発してガンセンターに入院したが、いまではどうすることも出来ない症状だという。

三月上京を機会に築地のガンセンターへ走り、病室で彼の傍に寄った。彼は細い腕を出して、よく来てくれた。もう駄目なんだと力強く私の手を握って振った。どんなに嬉しかったのだろう。両頬からは止めどもなく涙が流れていた。私もこの冷い手を堅く握ってしばらく声も出なかった。

下顎がラジュームで焼け、舌が大きく張れ上って話す言葉は充分聞きとれなかったが、連日傍に居られて看護する奥様の通訳で内容は充分判った。なぐさめる言葉もなく、私がノモンハンで下顎を抜かれて、舌根を切られ口からハミ出していた当時の苦しさを話して同情の言葉に代え、万に一つ、天の神が救ってくれることもあるのだ。あとは気力だとはげました。丁度鎮痛剤が効いて今楽になったのですよと奥様が私に話して下さるのを聞いていた彼はペンと紙を枕もとから手さぐりで探して「痛い、癌の末路」と書いた。その痛さは何にもたとえようのない苦しさで、夜中のた打ち廻り度い苦しさは想像に余りあった。私が居った約二時間余りは全然その様子もなく不自由な口もとから近所に寿し屋があって、とても美味いから帰りは女房が案内するからよってくれと元気で話してくれた。

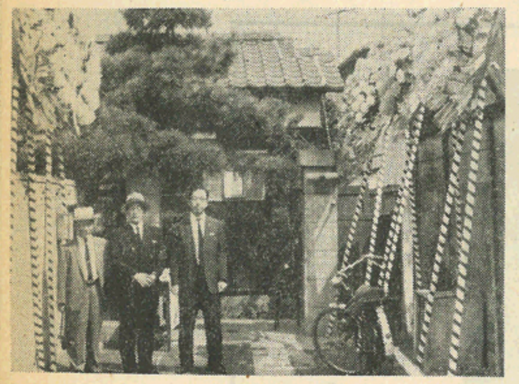


絶筆

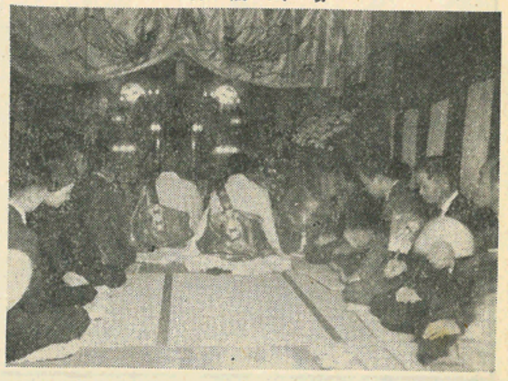
奥様も長女が病院の前の東急ホテルで結婚式を挙げて新郎新婦揃って式場のまゝの姿で、この病室に来て角谷君に見せてくれた話を私にすると、角谷君もそうなんだと満足そうな顔で私の顔を見つめていた。

彼はやがて死期の来ることを知りながら淡々と事もなげに語っていた。小さなことにこだわらない男、めんどうくさいことは一切知らん顔の男であった。その反面義理堅い男でもあった。家を新築するその建前の日に家におらず、さっさと何処かへ行ってしまったり、恩師松尾、マチルド両先生を北海道から関西に招いて京都、奈良を案内するあたり彼の性格が現われている一面でもある

惜しい人物を失った。どうぞ安らかに眠って下さい。



式場の三人



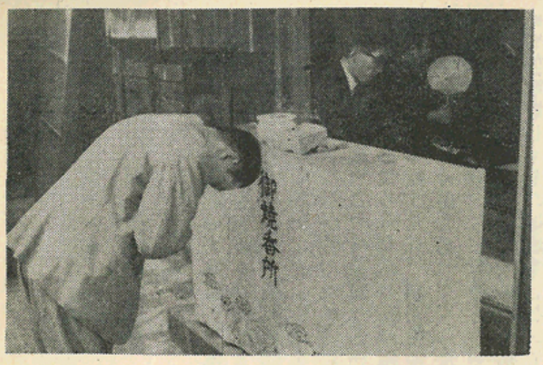
葬儀式場

角谷栄作君経歴

一、昭和十一年三月　小樽高商卒業
一、昭和十一年三月　三井物産株式会社入社（小樽支店）
一、昭和十三年九月　応召（北支）
一、昭和十五年十二月　除隊
一、昭和十六年一月　結婚、上海支店勤務
一、昭和二十一年頃　中央毛織㈱入社
一、昭和三十七年一月　中央毛織㈱取締役就任
一、昭和三十八年一月　㈱高義専務取締役就任
一、昭和四十年八月十日　死去

角谷君を憶う

小島典春（昭一一）



「角谷君が東京築地のガンセンターに入院していて重態だから見舞に行ってやってくれないか」墓目君からこんな葉書を受取ったのは今年四月下旬のことである。

角谷君とは三寮で一緒だったし、彼の温厚な人柄に親しみも感じていたのだが、卒業以来三十年一度も会う機会がなかった。一昨年頃東京へ転勤して来たと聞いたまゝいきなりこの知らせである。あの角谷君が……ガンに冒されて……茫然とした私の脳裏を若き日の思出がかすめて行く。

病室のベッドに起き上った彼は私の来訪を心から喜んでくれた。学生時代のこと、友人の消息など話は尽きなかったが下顎部を冒されて話ができずメモに書いて筆談に頼る彼の姿は痛々しかった。しかし、時間を忘れて私との話を続け、自分の死後のこと等を熱心に相談する彼の眼に私は異常な感動を覚えた。その眼は自己の死を目前に自覚している人の悲嘆や絶望の色など全くなく、心の何所かに安心立命の安らぎがあるのではないかと思われるような輝きさへあった。松尾先生が彼へ宛てた見舞状のなかで西欧の誰かの言葉として「太陽と死は直視することのできないものである」と書いておられたが、その死を直視してたぢろかない彼の姿に私は一種の羨望をさへ感じた。

その後何回か彼を訪ねたが病状は日増しに悪化する許りだった。そんなある日のことである。昨秋行われたオリンピックを見るのを大変楽しみにしていたのに、当時既に斗病中のことゝてそれも叶わなかったのでせめてこの際競技場だけでも見て置きたいと、一日車を走らせてあちこち見物して廻ったのが、とても嬉しそうだった、と奥さんのお話に涙を催す許りであった。

発熱苦痛が続くようになってからは訪ねるのも遠慮勝ちになっていた八月のある日突然の訃報である。しかし彼はその臨終おだやかに安らかに息を引取ったと聞いて、私はホッとして、苦しまず、済んだ幸せに感謝すると同時に、矢張り角谷は角谷らしい死にかたをしてくれたと彼に対する敬愛の情を愈々深めたのであった。

緑丘での僅か三年の交友がこんなにも人の心と心を固く結ばせるものか、彼の死を通じて母校の目に見えない偉大な力を改めて深く考えさせられた次第である。在天の霊よ、永へに安かれ！

（公認会計士）

30年振りで会ったのに

江口武雄

江口汽船㈱社長（昭11）

角谷君、本年六月墓目君から君がガンで入院していると連絡があっておどろいた。

別れて三十年目に合うのが、これである。三年位前だった。六甲ゴルフ場のロッカールームに君の名前を見つけてなつかしく会いたいと思ったが、しばらくして東京転任を知った。

故郷を遠くはなれて小樽三寮に入った僕は、浅黒い顔で小太りし、涼しく人なつこい円い大きな目をして、いつも温い空気をかもし出している。素朴な感じの君を見出し、よく話合ったものです。裏山や公園を散歩しながら君の故郷のことをきいた。裏日本といえば暖い感じが先に立つが君から聞く大聖寺町の風景は明るい町であった。寮にいる人にも皆好かれていた。或る時A君が拳斗グローブをもって帰えった時も、気持よく附合って適当になぐられていた。頼られゝば厭といえない性質がよく出ている。

最初の夏休に三景の一である松島見物に行くことになり、二人で計画したが、結局プランなしで行き当りばったりと決定した位ノンキな面もあった。松島での写真・島を背景にオールをもつ君の若い時のものが、いまも写真帳にあり、昨日のことのように楽しく思出される。

七月に病院をたづねて奥様から一年半に亘る斗病生活をきゝ、いまさらながらガンの恐しさと君の相変らずの頑張りを感じた。治つたら釣に行くのだと本を読むときき泪をおさえた。今迄の努力の収獲の秋を前にして業病に取つかれた君および御家族の残念さも当然であるが、僕としても残念でならない。痩せてガリガリだろうと思っていたのに病室で見た君は相変らず小太りに太って昔の通りだった。差出した君の手の温かさが、いまも僕の胸をしめつける。

元気になれと願って神戸に帰った僕のもとに君の訃報がとどいたのは数日後であった。温和な好人物の君を心ないガンが襲ったのである。三十年目に会えたのが最後とはやりきれない気持である。いまは君の御冥福を心から祈ると共に残られた御家族が気を新たにして御幸福になられることを祈ってやみません。

友人角谷英作君の死を悼む

紫竹 亜津視（昭一一）

八月十一日朝同期の小島君より電話にて角谷君の死を知らされ愕然とした。多分四月頃と思うが病気再発入院の報に築地の癌センターに彼を見舞ったが、放射線治療のため舌が丸く腫れ流動食を採っていた。言語も多少不自由のように見受けられたが、それでも比較的元気で同期生の近況等をしばらく話し合って別れたのが最後となった。

昨年、日大附属病院で癌の疑で初めて手術をし、その後治癒したとて当社にやってきたが（勤務先の㈱高義は当社の繊維関係取引先）手術のため頬が凹んだのが、幾分目立った程度で昼食を共にして仕事の打合せの外にゴルフの話等をした。彼はゴルフ経歴もあり、その道のベテラン、小生は始めたばかりで、もう少し上手になったら一緒に遊んでやると大いに吹きまくられ、口惜しがったのも今は悲しい思い出となった。

彼は小生と共に高商卒業と同時に三井物産に入社、十六年上海支店、二十一年大阪支店勤務となったが、二十一年十一月退社、その後中央毛織（大阪）を経て現在の高義に転じ同社専務として活躍していた。友情に厚く誰にでも好まれるタイプでわれわれ友人仲間でも大いに今後を期待していただけに、突然の訃報に接し寔に哀惜の情に堪えない。

十二日葬儀には葬目、小島両君と共に同期生を代表して参列、心より冥福を祈った。

御遺族は奥さんの外に成人された二人のお嬢さんがあるが、今後の幸多からんことを願ってやまない。

（遺族）角谷優子さん（船橋市小栗原五丁目三〇三）（三井物産）

石井登さん！

この写真があなたの最後とは

矢野 正郎（昭一二）

石井さんが逝去したことを聞いて驚いた。

ついこの間、関西エルム会と関西緑丘会との対抗戦で、非常に元気で応援されておった。これがその時の写真です。私のカメラ経歴は決して古いものでなく、露出をはかりながら落付いてシャッターを切るので、決定的瞬間という大家の撮影はとれないですが、全く偶然か元気な石井さんが居るではありませんか。現像して引き伸ばして見たら、この写真を発見したのです。

葬目さんは石井さんの写真がないため、豊中の奥様のところまで、日曜日に電話して速達で届けてもらって締切に間に合わしたという。もうすべての原稿が印刷屋へ行っているとのことを聞き、スペースができたら是非とお願いしてお渡ししてきた。

こんなに元気であった石井さん、たった一カ月たらずで、境を異にするとは、お元気なうちにお目にかけたかった写真だった。

あの世に去られても楽しかった対関西エルム会を憶い出して下さい。

御家族の皆様どうぞこの元気な石井さんをごらんになって、大いに励げんで下さい。石井登先輩のご冥福を祈ってやみません。

石井登さん（左）

多喜二碑建立記念色紙展

ことし春から始められた小林多喜二文学碑を小樽市に建立しようという運動は、地元小樽市と多喜二の母校小樽商大、それに道内外の文学関係者が中心になって、建立資金の募金を行なってきたが、目標三百万円に対し、ほぼ半額が集まり、なお全国各地からの寄金が続いている。

小林多喜二碑建設期成会は募金運動と並行して、道内外の各界有名人に、色紙、短ざくの寄贈を呼びかけていたが、このほどおよそ百二十点が集まったので、九月七日から十二日まで、札幌丸井デパートで、多喜二碑建立記念色紙展を開き、色紙類の即売を行なって建立資金の一部に当てることになった。色紙、短ざくを出品している顔ぶれは、伊藤整、野間宏、早船ちよ、壺井繁治、藤森成吉、近藤芳美氏ら文学関係者を中心に、演劇界からは千田是也、河原崎長十郎、中村翫右衛門、村山知義氏ら、美術界からは本郷新、国松登氏らのほか、言論界、学界から柳田謙十郎、末川博氏らという豪華メンバー。

（北海道新聞から）

異動

栄転

石田興平
大阪大学経済学部金融論講座担当
（滋賀大学経済学部）

杉本敏雄（昭一〇）
日魯造船㈱専務取締役（日魯漁業㈱大阪支社員）
函館市津野町一番地

藤井三康（昭三六）
東洋護謨化学工業㈱大阪営業所
大阪市北区中之島三丁目五ノ二
三井ビル内

梅津正一（昭八）
美唄窯業株式会社専務取締役（北海道農材工業株式会社）
美唄市東一条南四丁目

峯村文人（元教授）
東京教育大学国文学科教授（同校助教授）

小関 勇（大一一）
財団法人競走馬理化学研究所理事
東京都世田谷区玉川用賀町三ノ一二

秋元金四郎（昭一二）
富士銀行帯広支店長（銚子支店長）

高原一雄（昭二〇）
北陸銀行北見支店（今里支店）
北見市北一条西二丁目一番地

加藤一幸（昭三六）
三井建設㈱名古屋支店

山本美智雄（昭一四）
武田食品工業株式会社多摩川工場
事務部長（本社）
川崎市北見方字山王下耕地五四五番地

桑島喜助（昭二）
大阪ロイヤルホテル

住所変更

大泉行雄（大一一）
横浜市神奈川区六角橋五丁目二一一二

吉川優幸（昭一一）
東京都北区西ケ原一丁目三六番RB四〇四

福田耕作（昭一一）
東京都中野区白鷺三丁目一六号

越智直行（昭一七）
伊丹市寺本公団住宅九の一〇六

石田興平
京都市北区小山上内河原町一三

松田 寛（昭三五）
広島市牛田町新町新山二一一の五〇

遊佐憲三（昭七）
札幌市琴似町山の手二条五丁目

渋川陽一郎（昭三二）
東京都品川区戸越一丁目二八ノ三

吉田荘太郎（大一五）
東京都杉並区久我山一ノ四

広瀬久一（昭二）
函館市元町二四ノ三

中津正三（昭八）
函館市大町七番十三号

中村統一（昭一二）
札幌市南六条西二十四丁目

長谷川大（昭三四）
東京都大田区山王二ノ一七ノ二四

川崎重工業株式会社大森寮内
田中三郎（昭一一）
埼玉県入間郡福岡町大字福岡一三九八番地

久保憲司（昭一六後）
東京都大田区久ケ原町一一三六

広島 進（大一三）
東京都新宿区中落合一丁目七番二〇号

大泉宗次（大一〇）
尼崎市武庫之荘一丁目一〇ノ九

梅津正一（昭八）
札幌市北一条西二十八丁目

渋川陽一郎（昭三二）
東京都品川区戸越一丁目二八ノ三

峯村文人（元教授）
東京都新宿区西落合四丁目十三番十一号

手塚寿一郎（昭三四）
西宮市仁川町三丁目二一一番地
日生社宅

三上四郎（昭八）
札幌市南一条西二十四丁目

伊藤 茂（昭八）
東京都武蔵市吉祥寺東町二ノ三四ノ七

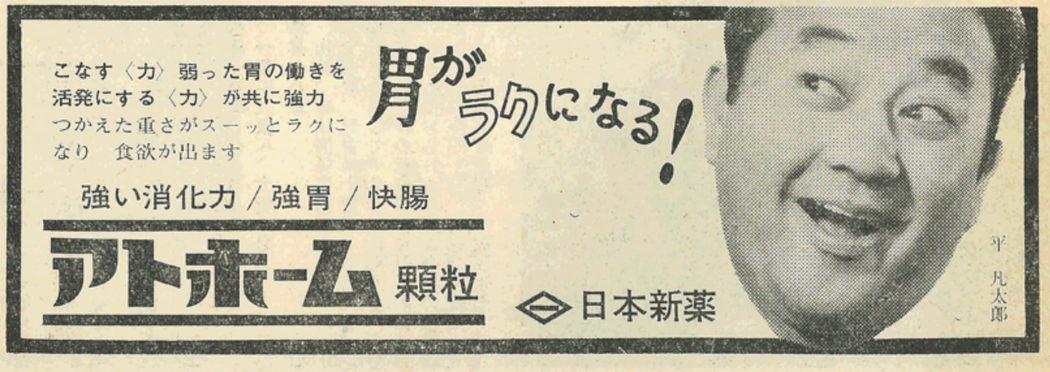
松永 展（昭三七）
奈良市西大寺芝町 井戸本方

屋代栄三郎（大一四）
芦屋市平田町七三番地

加藤一幸（昭三六）
名古屋市守山区大字幸心字河原一四ノ二

事務所移転

佐々木周一（緑丘会理事長）
佐々木事務所
東京都中央区日本橋通一丁目六
萬歳ビルデング七階
電話東京（二七二）（代）八六一一
（内線五四五）
直通（二七一）八六三四



八月十日

会社へ出勤するなり、栗山君より電話、角谷君が死んだという電話がいま奥さんからあった。とのこと。江口汽船社長に連絡せよと電話を切る。

情報を知らすべく上野君へ電話する。話し中。三回掛けてもまだ話中。

若山幹事長から電話。マツキノン先生募金の件について。西宮から電話、今度はウチの女房から角谷さんが亡くなって病院で密葬、何れ日を改めて告別式が行われると。

続いて江口君から栗山君から今角谷君が死んだとの連絡があった。香奠をたのむ。続いて栗山君から同様の電話だ。さっぱり仕事にならぬ。

昼休みを利用して東洋紡（本町）を訪問、上野君に伝えるべく出掛ける。

東洋紡さんはここには居りません。元の事務所へ帰りましたという。

不人情な男だ。移転通知も出さぬなんて。この多忙な身体なのにと思うとカツとなる。

会社へ帰ると上野さんから電話があったという。こっちから電話すると俺れにも連絡があったが、会議で上京出来ぬので君上京してくれぬか。と。

三人の攻撃を受けて、上京を決心

八月十一日

東京支店赤津俊樹君（昭一九）に電話して同期小島典春氏（昭一一）に角谷の告別式日程を聞かす。十二日午後二時からとの返答あり。

新幹線切符があるか、交通公社へ問合わす。交通公社は切プなし。新大阪駅へ走ってもらう。十二日朝八時発入手。東京へ再び電話して東京駅十二時着小島氏の迎えをたのむ。

昼近く大谷さんから小包五ケ到着の連絡をメール係より受ける。マツキンノン先生募金の趣意書到着だ。昼休みを利用して福岡、広島、岡山、京都、名古屋へ趣意書の山を作り、趣意書送附の案内原稿を書き、すぐゼロックス五枚を作る。小包開始。大阪支部、神戸支部の封筒アテ名印刷発送準備完了。

大谷敏治先生へ手紙を出して発送の旨連絡。

仕事　仕事！

千歳行き飛行機の切符、明日午後六時とれたとの電話を受ける。

会社の勤務時間終る。さあマ先生の書類封筒詰めだ。詰め終って発送を依頼する。そうだお金を渡さねばならぬ。

休暇票を出さねばならぬ。帰って「緑丘」の編集を三頁すゝめる。

八月十二日

起床六時、新幹線八時に乗車、原稿用紙を出して〝カンの鋭さ〟オンデイーヌと佐竹さん――の原稿を書く。＝次号『緑丘』用に。

朝日新聞、日本経済、朝日ジャーナルを読みつつ東京駅に到着。

小島典春、紫竹亜津視両君の出迎えを受ける。同期高橋正敬、若公の両氏もここに見える由、十二時半まで待つ、姿見えず、三人で角谷葬儀に向う。道には矢印あれど途中で消える。沢山の参列者と思われる方あとから続く。印の消えた所で後続者のあとにつく。

式場に到る、読経がはじまっている。焼香して後、縁に腰をおろす。暑さきびしく、汗はふけどもふけども流れて止まらず。

小一時間を以て式も終る。告別式で出棺がない。角谷未亡人に挨拶して別れる。東京駅で精進上げをして別れようと話がまとまったが、お茶水駅で小島君の案内所まですぐだといわれ、小島君の案内で九段の事務所へ行く。冷いお茶をいただき、同期名簿の生死不明者をしらべる。

某月某日

編集部

ビールをのんで別れようと外へ出る。角谷をしのんでしばし少憩。

車で羽田へ走る。すぐ千歳へ着いた。

小樽鈴木三七さん（昭八）へいま着いた。ヨイチにデンワたのむと打電す。

八月十三日

余市の父母に会い夕方より墓参。声大きく読経。終ると近所の墓から今の坊さん何処へ行きましたでしょう。うちの墓もお詣りしてほしいのだがという。

高商時代正法寺で鍛えた摩訶般若波羅密多心経を上げてスウーツとする。

越崎清二君（昭一一）から電話がある。明日五時三幸（小樽）で会う事を約す。

鈴木三七さん（昭八）から電話あり明日の会合を連絡。トウキビを食べながら父母と話している中朝三時白々と夜が明ける。

八月十四日

バスで小樽に向う。

学校へ登る。中島事務長久木先生、浜林先生に緑丘本部で会う。加茂学長は札幌、竹村吉右衛門さん（大一〇）も東京から来札と聞く、中島さんに御案内を願って研究室建設開始の状況を見る。浜林先生と手塚教授特集号の打合せをする。

洗心橋から墓地に上る●手塚教授の墓所を探がす、雨シトシトと降る。見当らず。女房の里の墓をお詣りして車に乗る。乗ってすぐ織田ムメさんの家を発見＝（小林多喜二特集に大野学長と一緒に撮影の人）下車して挨拶。

五時三幸（㊥の前）に行く、鈴木さんが待ってくれた。緑丘未申込者を訪問して申込を勧誘したお話を聞く。山本（昭八）さんを呼ぶという。越崎さん（大一一）が見えた。続いて越崎清二さん、山本信爾さん、本間誠一さん（昭一一）記念撮影。〝緑丘〟に対する批判を聞き山本さんに原稿依頼する。

高山さん（昭一一）渡辺さん（昭一一）が参加してくれる。

三幸を引き上げて何処へ行こうという〝小樽の寿し〟と所望する。〝幸寿し〟へ。ホッキの寿しがある。小樽の寿しはマグロもウニもうまい。ごちそうになり放しで、函館行きの汽車に乗る。お盆のせいか満員。ズウズウしく一等車で余市まで。

十一時家に帰って、朝二時半まで語り合う。北海道で飲むサッポロビールの味またよし。

八月十七日

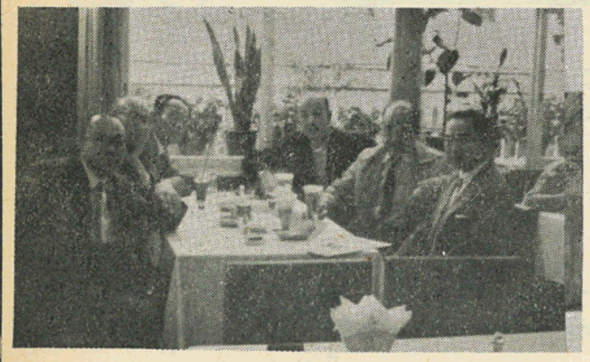
一気に大阪へ。大阪は暑い。

八月十八日

出社。緑丘関係来信五十一通、ハガキ二十六枚、封書二十五通、申込三名、それぞれ分類して、内容に目を通す。家で出すそれぞれの返事の予定をきめた。

こうしておられぬ本来の会社の事務にかかる、九時四十分、超過緑丘時間の四十分を会社終鈴後残って取り返えす。

小樽“三幸”で「緑丘」の批判を聞く



オリンピック以来
ユニークなアイデアを買われた！

各国代表料理缶詰シリーズ

MCC 料理缶詰 世界の味

只今!!　販売店サービスとして
異質業界で絶賛好評!!

料理指導
江上料理学院長
江上トミ先生

居ながら楽しめる
各国代表料理の缶詰

日本	すきやき
ロシア	ボルシチ
イタリア	ミートソース
ハンガリー	ビーフシチュー
アメリカ	コーンスープ
イギリス	トマトスープ
フランス	デミグラス・ソース
ドイツ	ハンバーグ・ステーキ
シシリー	スパゲッティグラタン
インド	ビーフカレー
スペイン	スパニシュライス
オランダ	いちごジャム
ポルトガル	ママレード

販売促進用景品
（セールズ　プロモーション）

各種セット組合せ調製

新発売
ホームカレー

エム・シー・シー食品株式会社
代表取締役　水垣敏正（昭五卒）
神戸市長田区苅藻通5丁目15　TEL神戸（67）1245(代)